

新型コロナウイルス感染症の影響下における 生活意識・行動の変化に関する調査

(項目一覧)

1. 生活意識の変化
2. 生活行動の変化

3. 将来の生活意識・行動の変化
4. 時点比較/パネルデータ

令和2年6月21日

内閣府

政策統括官（経済社会システム担当）

主な調査項目

1. 生活意識の変化

家族の重要性に関する意識の変化… 4
仕事の重要性に関する意識の変化… 4
社会とのつながりの重要性に関する意識の変化… 4
新たに挑戦したり取り組んだこと… 5、6
新型コロナウイルス拡大前、感染症の影響下の生活満足度… 7
地方移住への関心の変化… 8
結婚への関心の変化… 9
仕事への向き合い方の意識の変化(就業者)…10
仕事と生活のどちらを重視したいかという意識の変化(就業者)…10
職業選択、副業等の希望の変化(就業者)…11
家事・育児への向き合い方などの意識の変化(子育て世帯)…12
教育・学習に関する意識の変化(学生)…13

2. 生活行動の変化

感染症影響下で経験した働き方(就業者)…15
テレワーク経験者のWLBなどの意識の変化(就業者)…16
労働時間、生産性の変化(就業者)…17
仕事の効率性や生産性の変化(就業者)…17
家事・育児の夫婦間の役割分担の変化(子育て世帯)…18
家族と過ごす時間の変化(子育て世帯)…20
現在の家族と過ごす時間を今後も保ちたいか(子育て世帯)…20
子供のオンライン教育(子育て世帯)…21
学習時間の変化(学生)…22
オンライン授業を受講したか(学生)…22
1日の間に、同居する人以外に何人と話しますか(シニア)…23

3. 将来の生活意識・行動の変化

通勤にかかる時間の変化(就業者)…25
現在の通勤時間を今後も保ちたいか(就業者)…25
今後、どの程度の頻度でテレワークを利用してみたいか(就業者)…26
今後、テレワークの利用拡大が進むために必要と思うもの(テレワーク実施者)…27
テレワークで不便な点(テレワーク実施者)…27
家事・育児に関する、夫婦間の役割分担のやり方の工夫(子育て世帯)…28
役割分担の工夫の継続(子育て世帯)…28
東京圏で就職するか否かの選択・希望の変化(学生)…29
ビデオ通話の経験、関心(シニア)…30
今後、ビデオ通話を利用してみたいか(シニア)…30

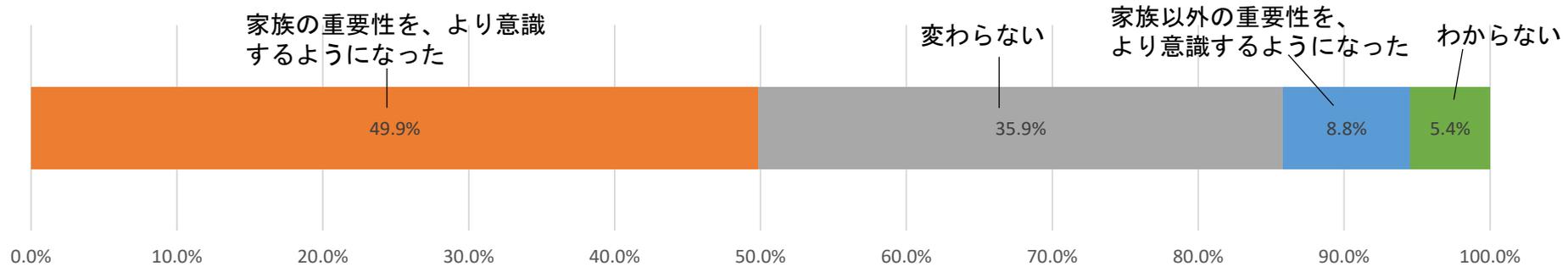
4. 時点比較/パネルデータ

5月調査と6月調査の比較…32
パネルデータの比較…33

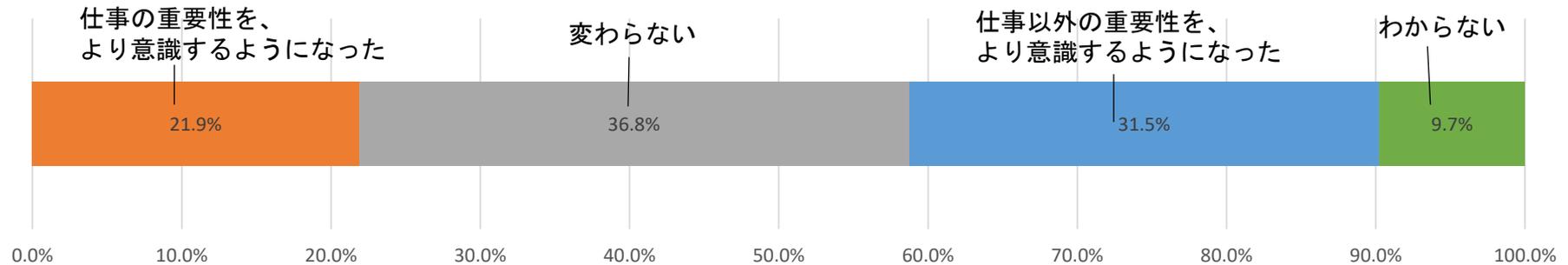
1. 生活意識の変化

1. (共通) 重要性を意識するようになったこと

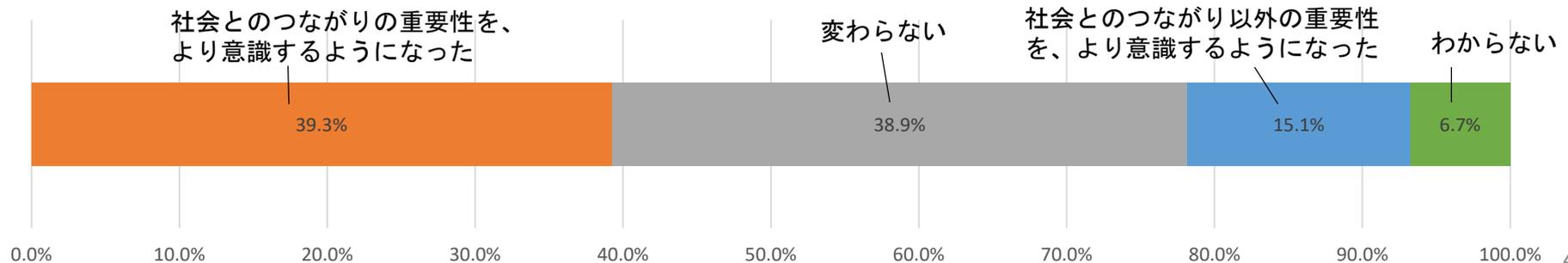
質問 今回の感染症拡大前に比べて、家族の重要性に関する意識はどのように変化しましたか。



質問 今回の感染症拡大前に比べて、仕事の重要性に関する意識はどのように変化しましたか。



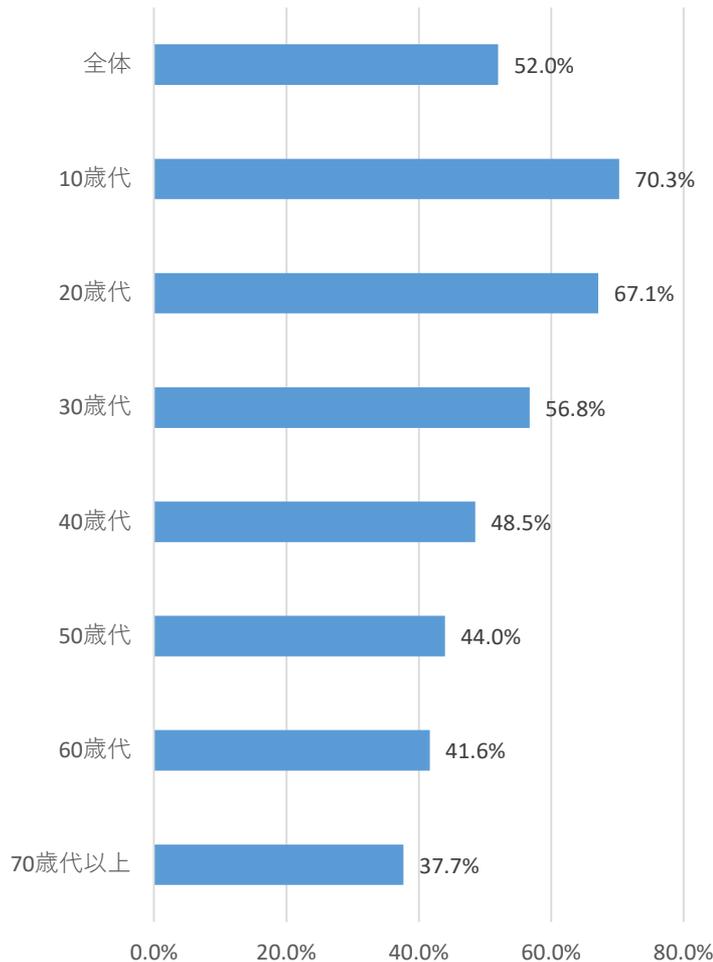
質問 今回の感染症拡大前に比べて、社会とのつながりの重要性に関する意識はどのように変化しましたか。



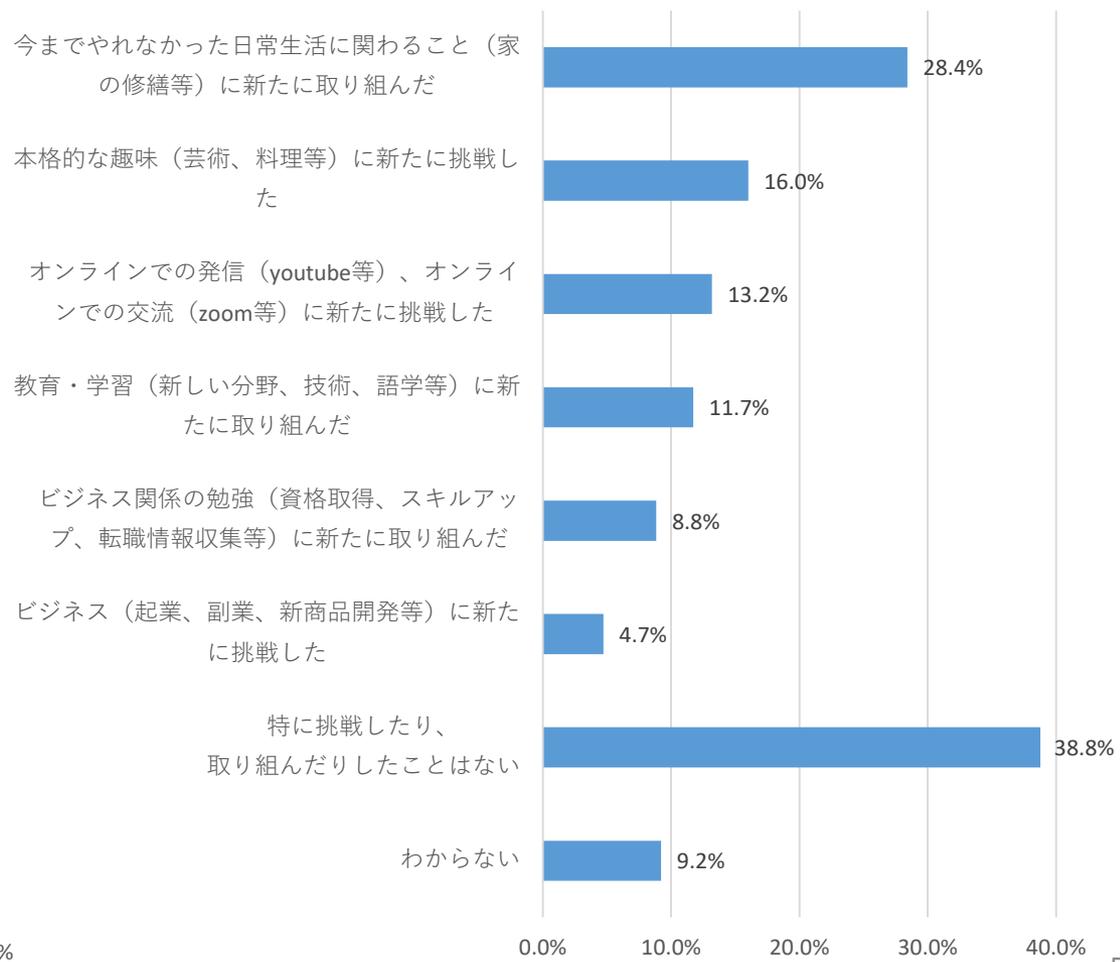
1. (共通) 新しいことへのチャレンジ

質問 今回の感染症の影響下において、新たに挑戦したり、取り組んだりしたことはありますか。該当するもの全て選択してください。

何らかの挑戦・取組をしたと回答した者の割合（年齢別）



挑戦・取組の項目別回答割合（全年齢計）



1. (共通) 新しいことへのチャレンジ (年代別の取組内容)

○10歳代では教育・学習、趣味、オンラインの発信・交流、20歳代、30歳代ではビジネス関係の勉強、新たなビジネスの取組割合が高い。

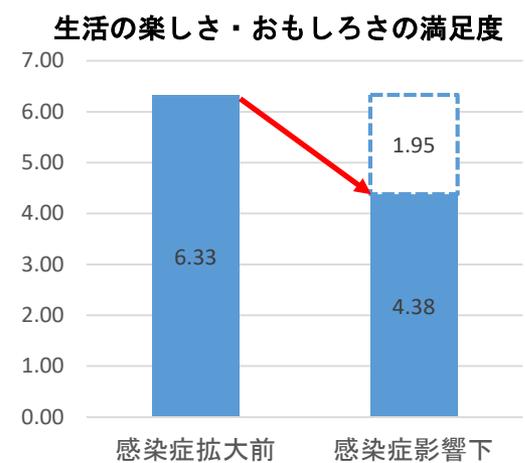
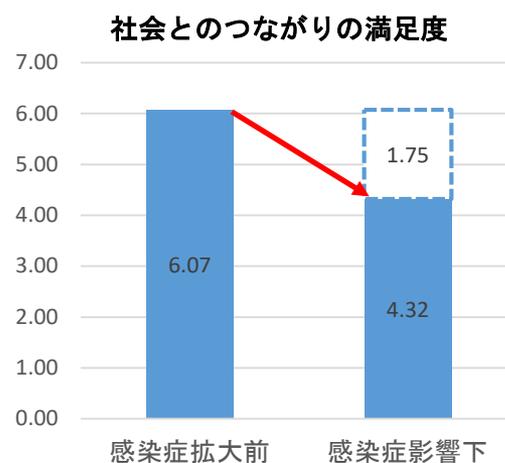
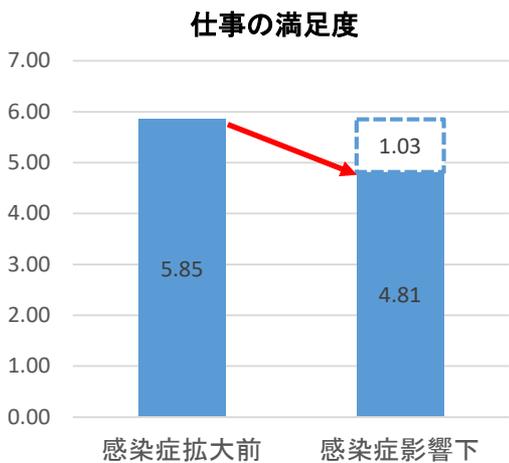
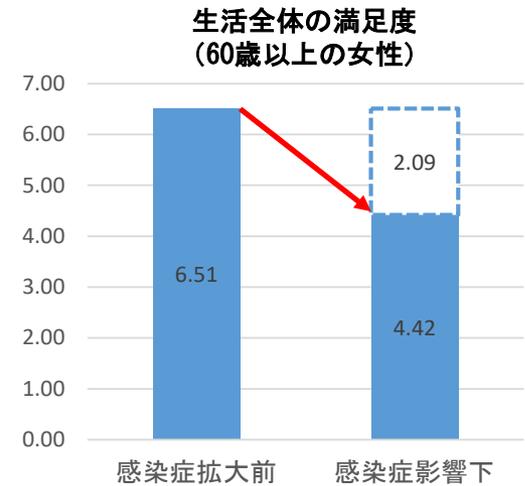
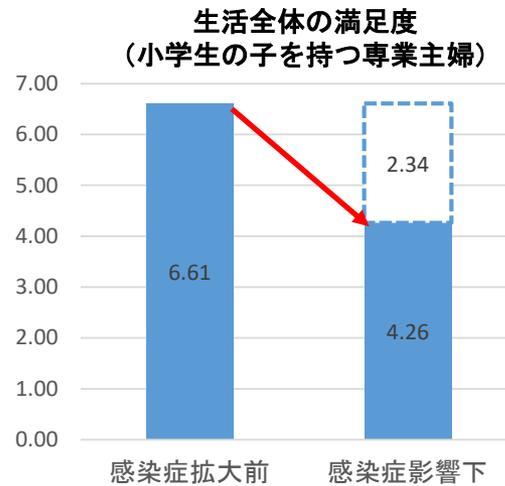
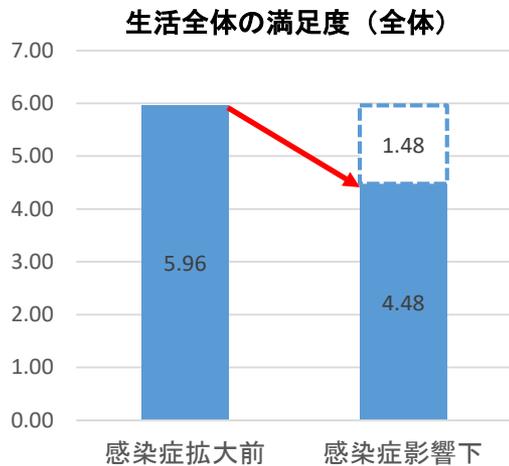
質問 今回の感染症の影響下において、新たに挑戦したり、取り組んだりしたことはありますか。該当するもの全て選択してください。

(回答者数/回答対象者数)	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
本格的な趣味 (芸術、料理等)	30.8%	25.4%	15.2%	12.4%	11.4%	11.6%	9.2%
教育・学習 (新しい分野、技術、語学等)	29.4%	23.3%	11.3%	8.3%	6.2%	4.6%	4.1%
オンラインでの発信・交流	28.8%	20.9%	14.2%	10.4%	8.9%	7.4%	5.7%
ビジネス関係の勉強 (資格取得、スキルアップ、転職情報収集等)	11.5%	17.2%	12.1%	9.5%	5.5%	2.7%	0.7%
ビジネス (起業、副業、新商品開発等)	6.3%	9.4%	7.3%	4.5%	2.5%	1.3%	0.4%
日常生活に関わること (今までやれなかったこと)	24.9%	27.4%	30.8%	29.0%	28.1%	29.1%	27.3%
特に挑戦したり、取り組んだりしたことはない	19.7%	24.9%	33.6%	39.7%	46.6%	50.8%	54.5%
わからない	10.1%	8.0%	9.7%	11.8%	9.4%	7.5%	7.8%

1. (共通) 満足度の変化

○生活満足度は低下。生活の楽しさ・社会とのつながり分野で低下幅が大きい。

質問 「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点とすると、①新型コロナウイルス感染症拡大前、②感染症の影響下、それぞれ何点くらいになると思いますか。

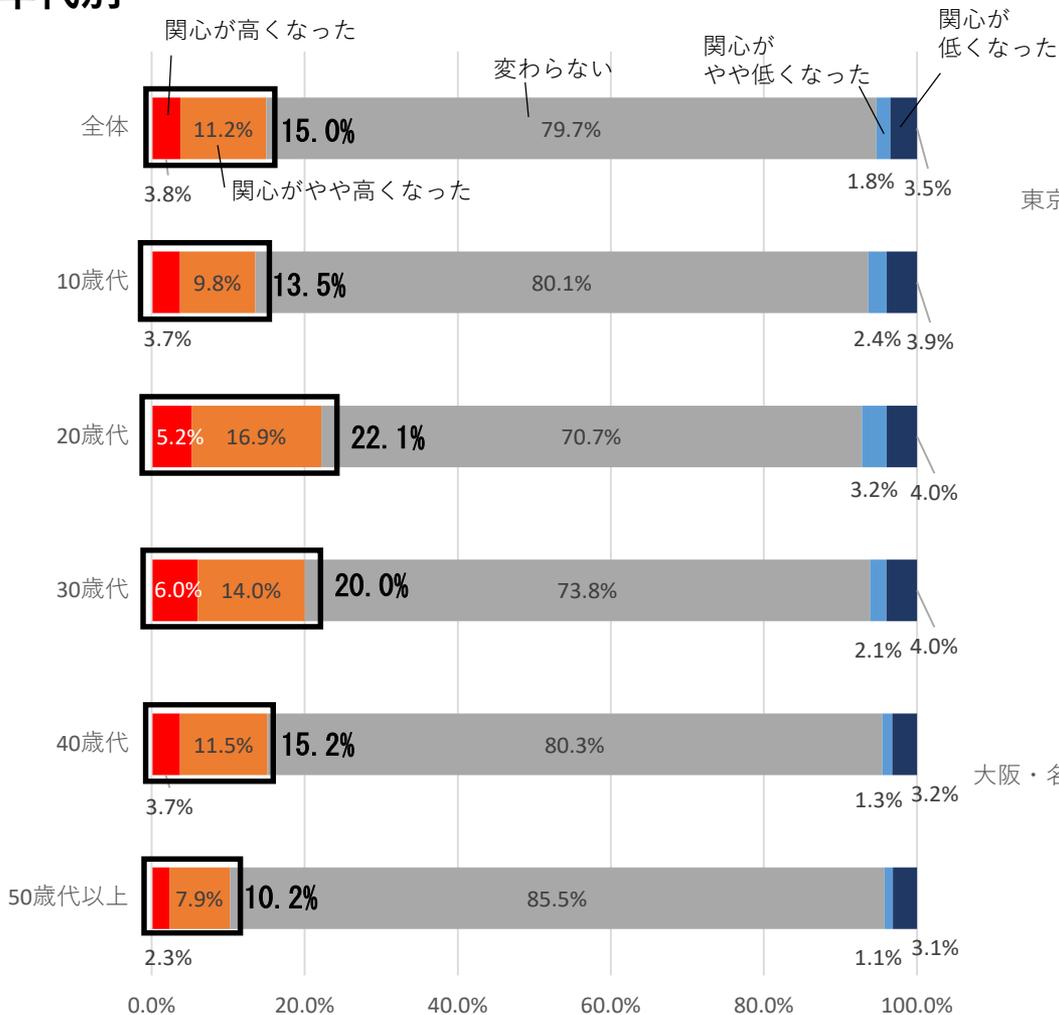


1. (共通) 地方移住への関心

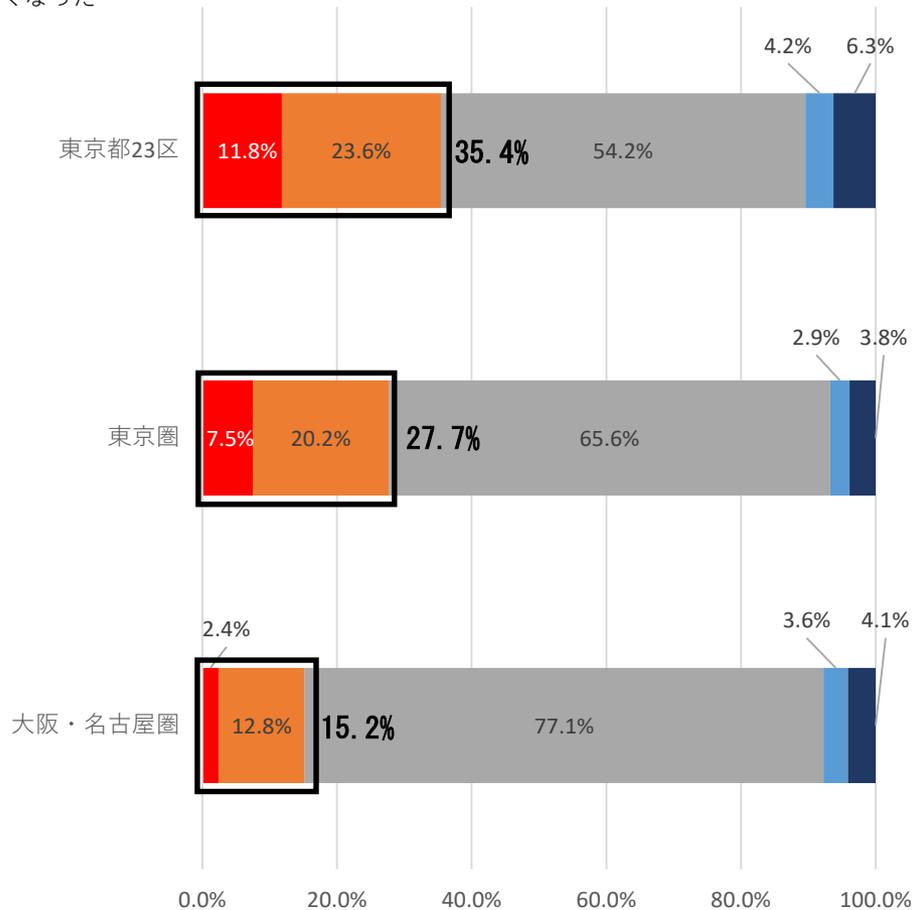
○年代別では20歳代、地域別では東京都23区に住む者の地方移住への関心は高まっている。

質問 今回の感染症の影響下において、地方移住への関心に変化はありましたか。(三大都市圏居住者に質問)

年代別



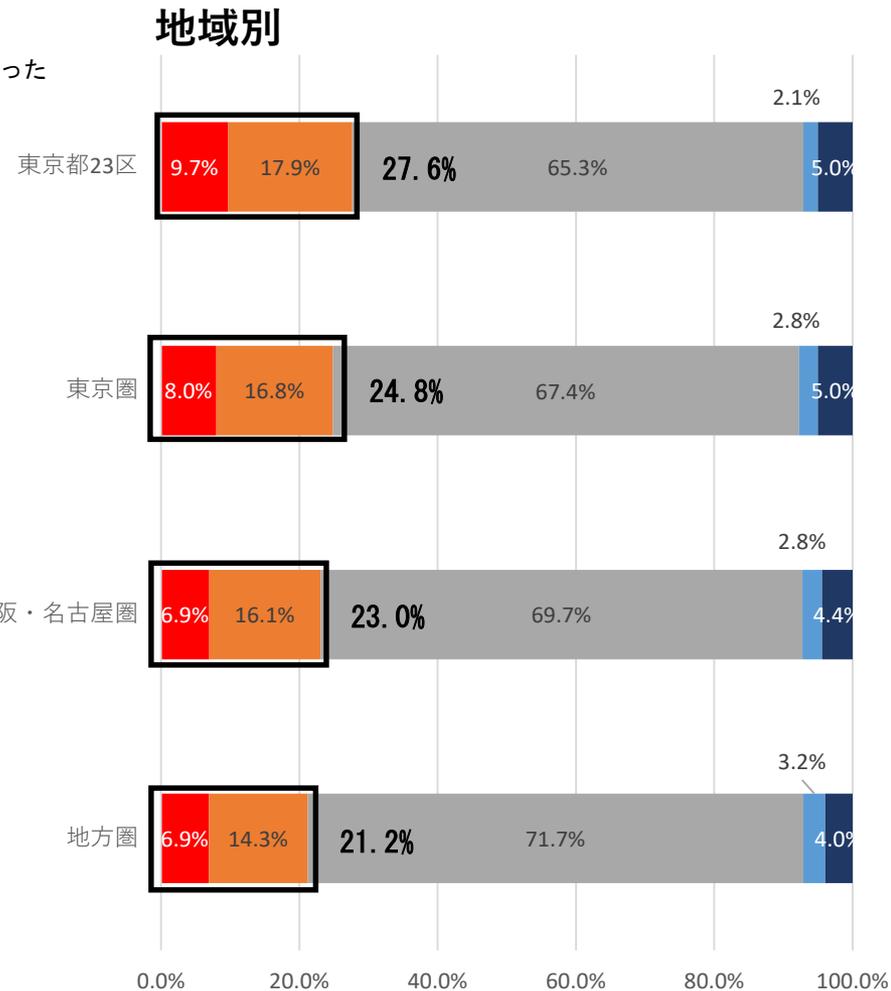
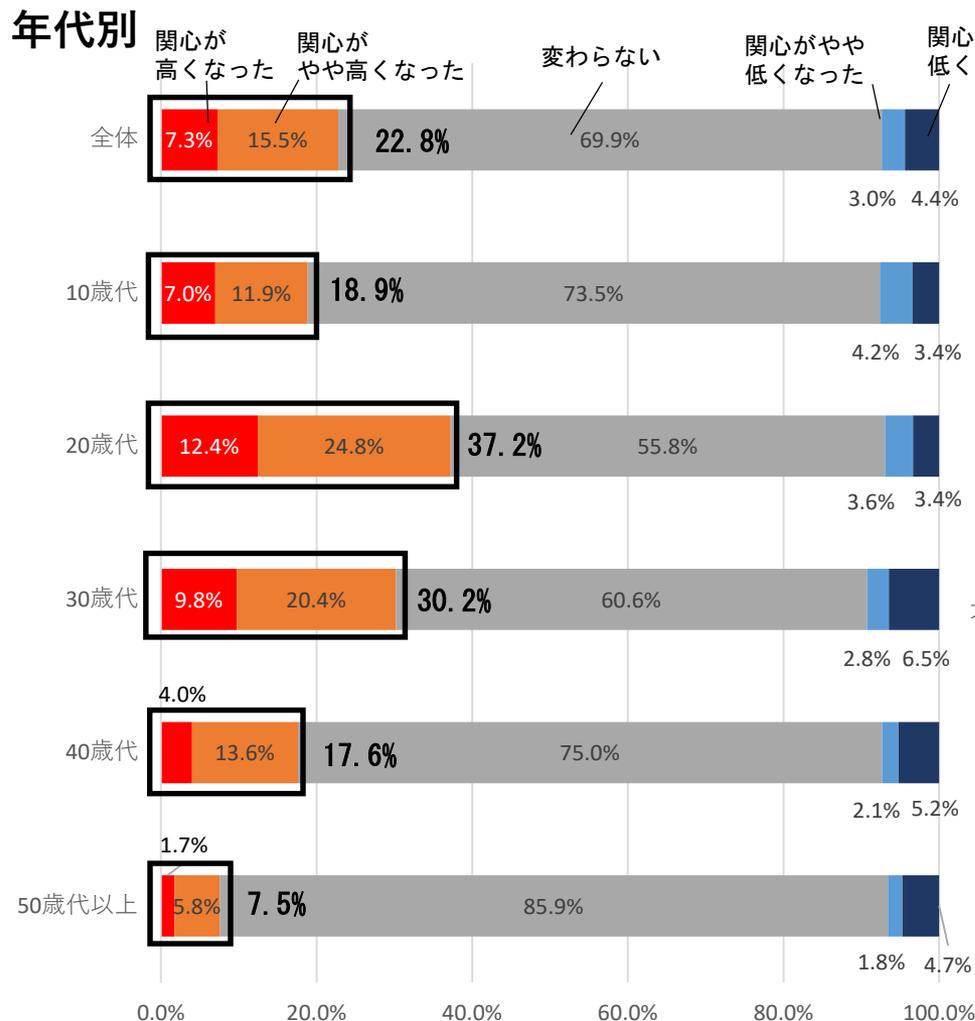
地域別 (20歳代)



1. (共通) 結婚への関心

○年代別では20歳代、地域別では東京都23区に住む者の結婚への関心は高まっている。

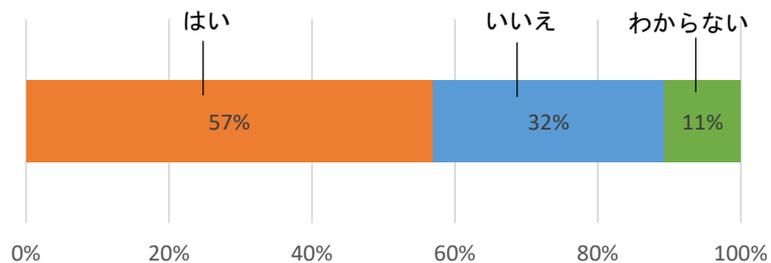
質問 今回の感染症の影響下において、結婚への関心に変化はありましたか。(独身者に質問)



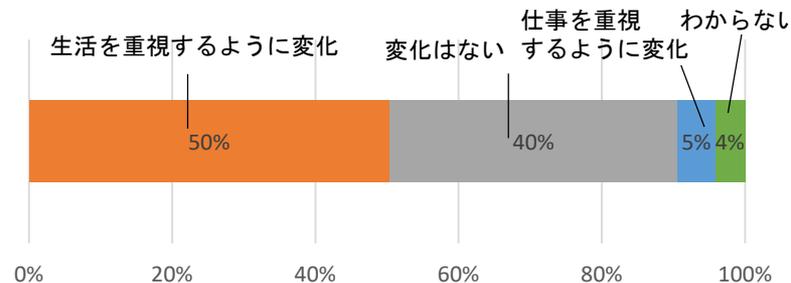
1. (就業者) 仕事への向き合い方の意識、ワークライフバランス

○仕事への向き合い方などの意識が変化した、との回答が5割超。
 ○(仕事と比べて)生活を重視するように変化した、との回答が約5割。

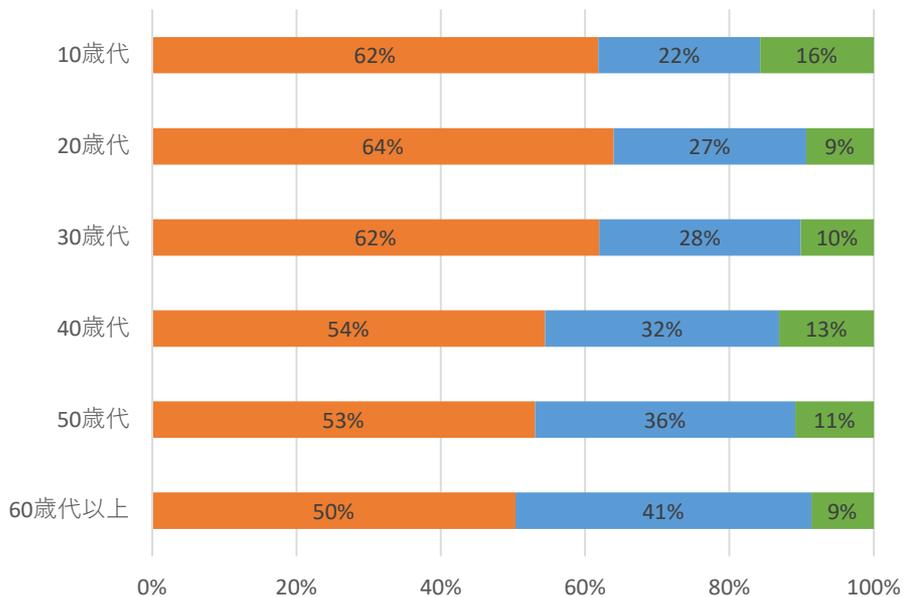
質問 今回の感染症拡大前に比べて、仕事への向き合い方などの意識に変化はありましたか。



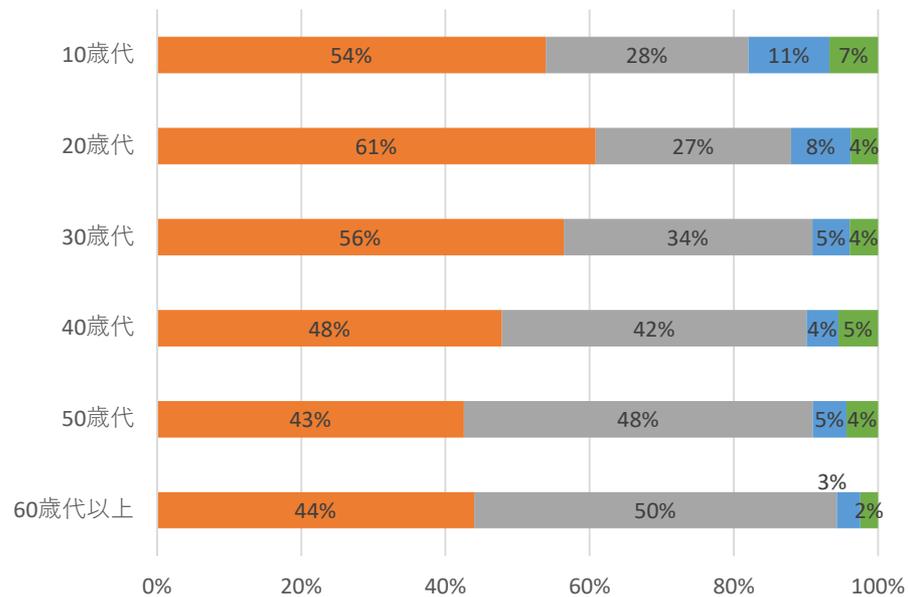
質問 今回の感染症拡大前に比べて、ご自身の「仕事と生活のどちらを重視したいか」という意識に変化はありましたか。



年代別



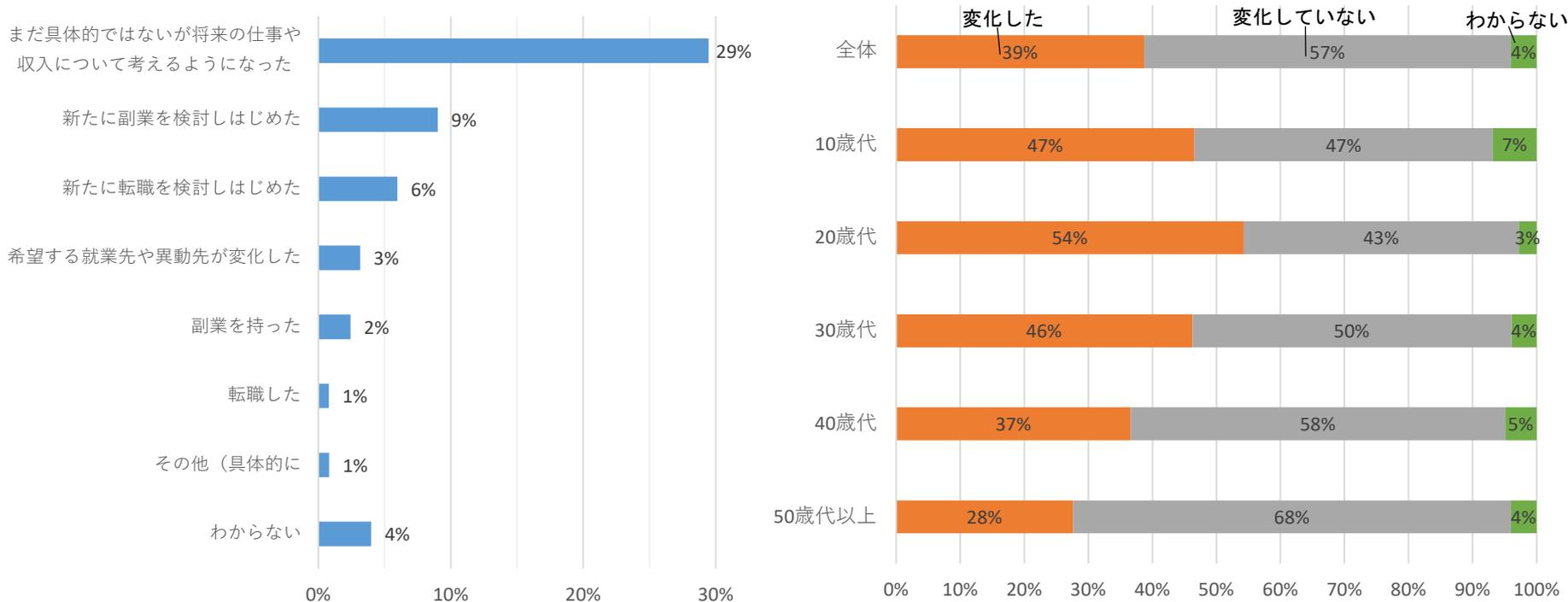
年代別



1. (就業者) 職業の選択、副業等の希望の変化

○20歳代では、職業選択、副業等の希望が変化した、との回答が5割超。
 ○職業選択等が変化した理由は、収入の減少やWLBの変化が多い。

質問 今回の感染症拡大前に比べて、職業選択、副業等の希望は変化しましたか。(複数回答)



※「変化していない」と回答した人の割合は57%

※変化した:「変化していない」と「わからない」以外のいずれかの選択肢を回答した者

質問 職業選択やその希望が変化した理由は何ですか。重要なものから順に選んでください。(最大3つ)

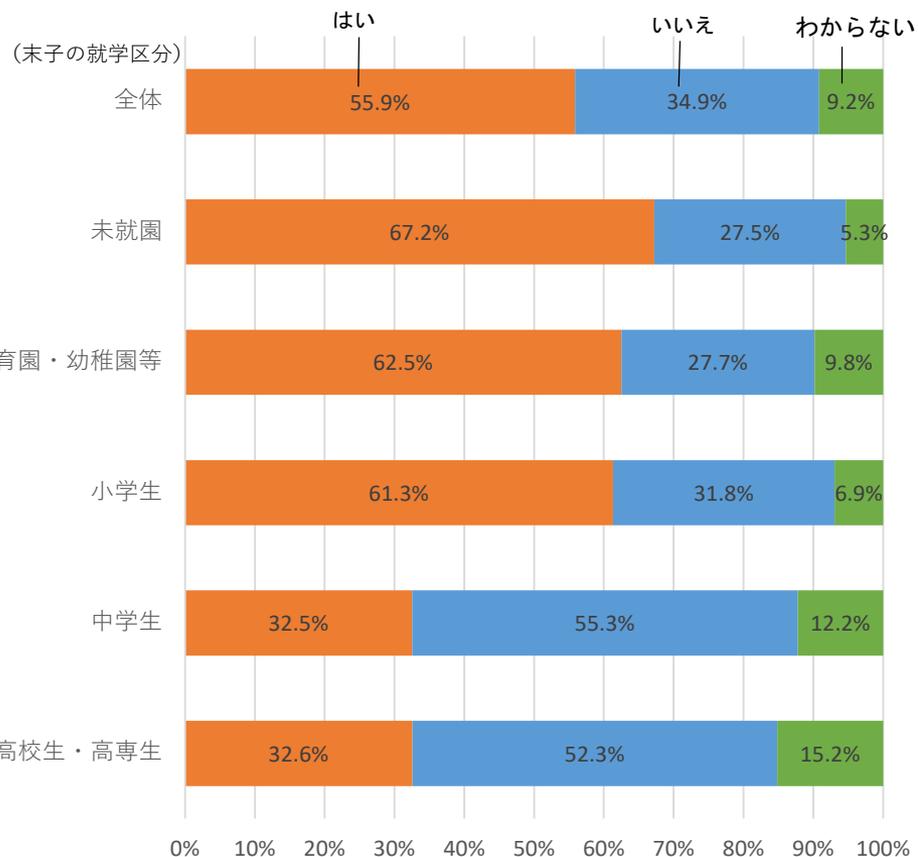
	今回の感染症を契機に、「仕事と生活のどちらを重視したいか」という意識が変化したから	今回の感染症の影響下において収入が減少したから	今回の感染症の影響下において仕事のやりがいを感じづらくなったから	今回の感染症を契機に、新たなチャレンジをしてみたいと考えたから	今回の感染症と関係無い理由	今回の感染症を契機に、人口過密な地域を離れたと考えたから	その他、今回の感染症に関する理由	今回の感染症の影響下において仕事が多忙を極めたから	特になし	わからない
3つの合計	49.5%	43.7%	35.6%	31.0%	23.9%	20.9%	20.2%	15.6%	40.0%	19.7%
うち1位	18.3%	31.1%	10.8%	8.1%	7.4%	4.5%	5.9%	5.2%	5.1%	3.5%

1. (子育て) 家事・育児への向き合い方の意識

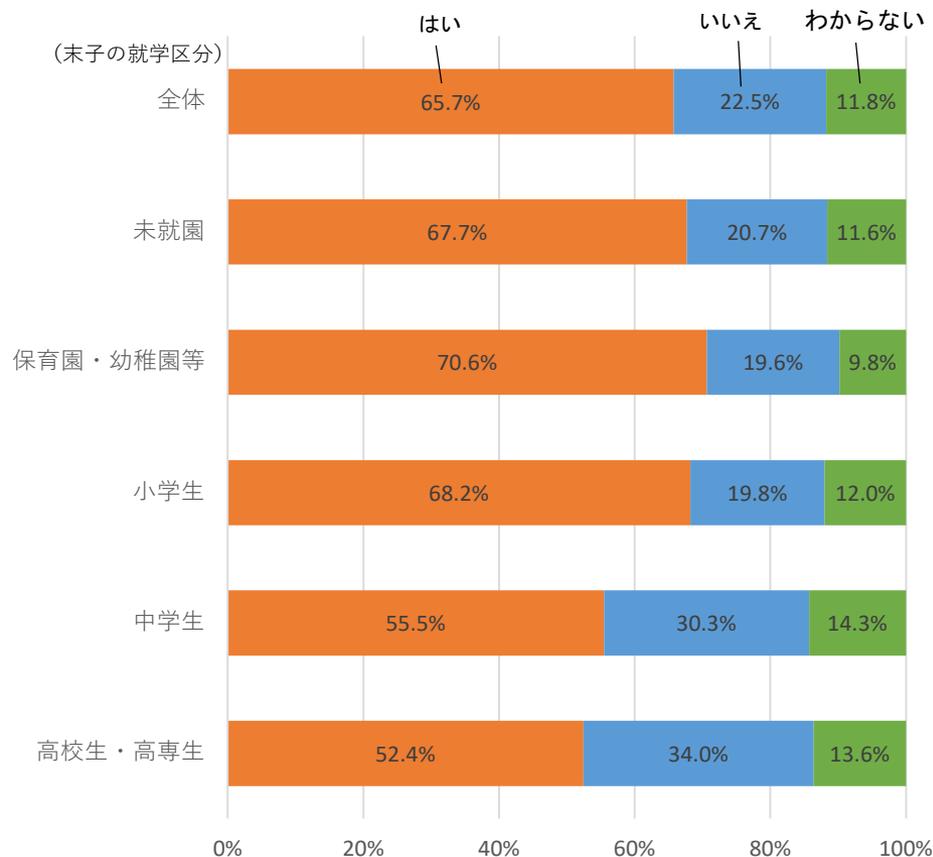
○男性の5割超、女性の6割超が、家事・育児への向き合い方が変化したと回答。特に子供（末子）が小学生未満の家庭では、意識が変化した割合が高い。

質問 今回の感染症拡大前に比べて、家事・育児への向き合い方などの意識に変化はありましたか。
(子育て中の方に質問)

【男性】

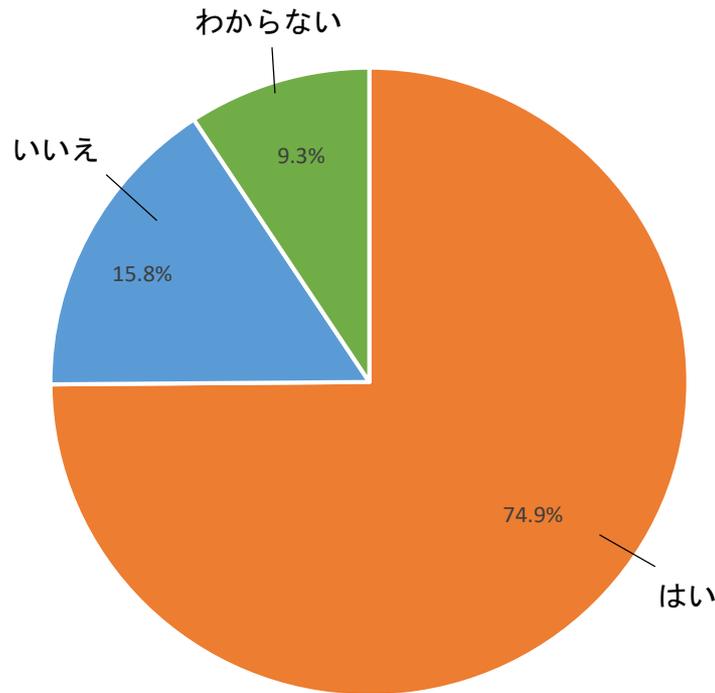


【女性】

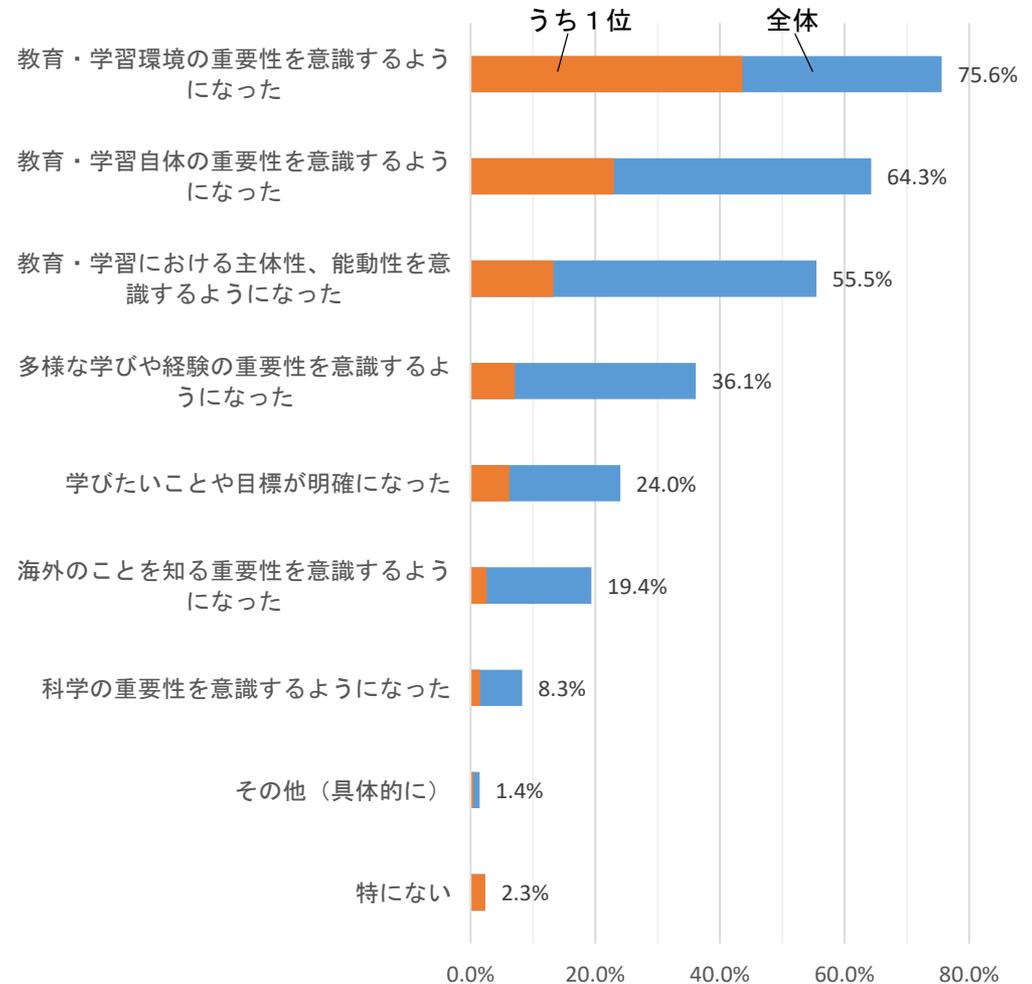


1. (学生) 教育・学習に対する意識、その内容

質問 今回の新型コロナウイルス感染症拡大前に比べて、教育・学習に関する意識に変化はありましたか。



質問 どのような意識の変化がありましたか。重要なものから順に回答してください。/(複数回答)



2. 生活行動の変化

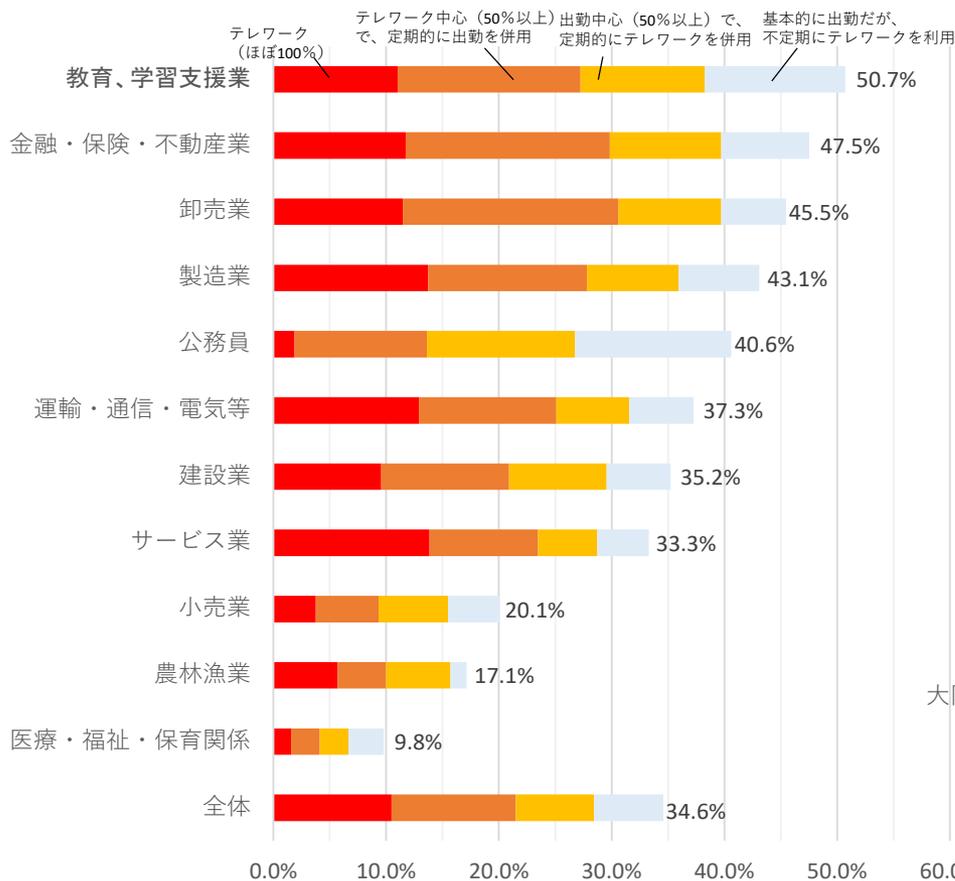
2. (就業者) 経験した働き方とテレワークの実施状況

○テレワークの実施率は業種別、雇用形態別、地域別で大きく異なる。

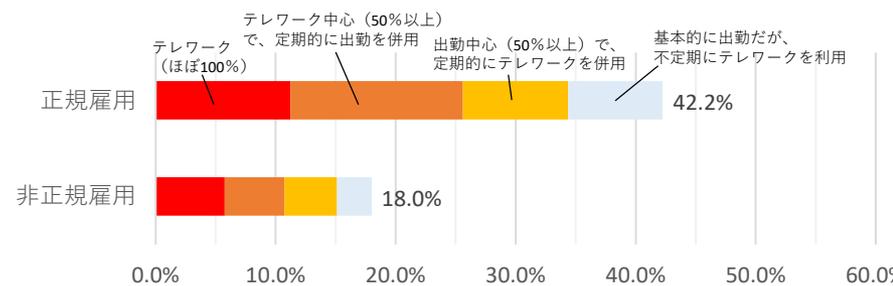
質問 今回の感染症の影響下において、経験した働き方を全て回答してください。

回答者割合	テレワーク (ほぼ100%)	テレワーク中心 (50%以上)	定期的にテレ ワーク (出勤中心： 50%以上)	基本的に出勤 (不定期にテレ ワーク)	週4日、週3日 などの勤務日制 限	時差出勤やフ レックスタイム による勤務	特別休暇取得な どによる勤務時 間縮減	その他	いずれも実施し ていない
全体	10.5%	11.0%	6.9%	6.1%	11.2%	9.3%	12.6%	3.5%	41.0%

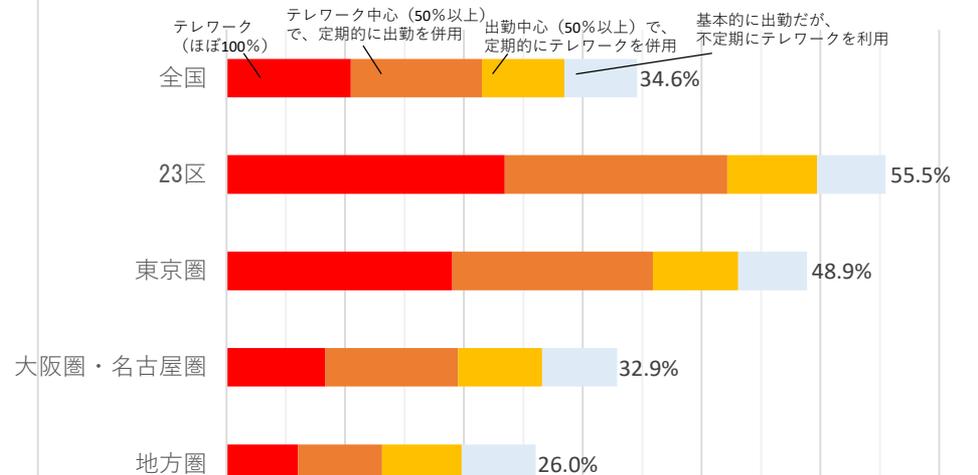
業種別 テレワーク実施状況



雇用形態別 テレワーク実施状況



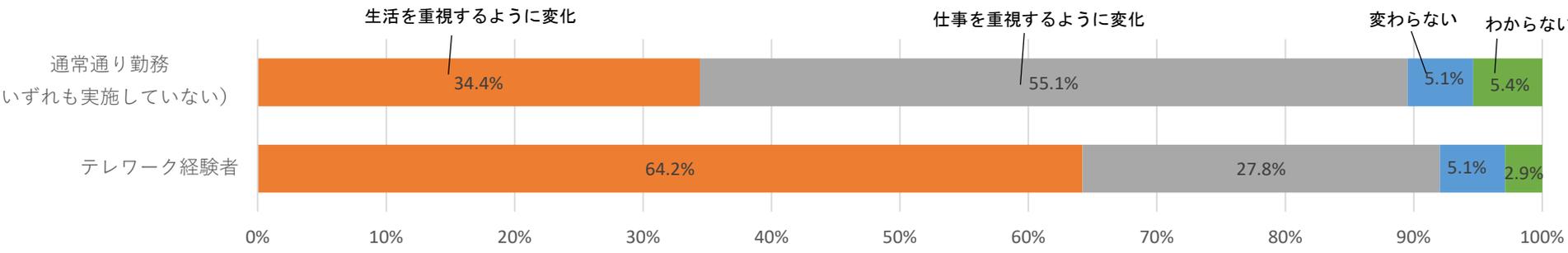
地域別 テレワーク実施状況



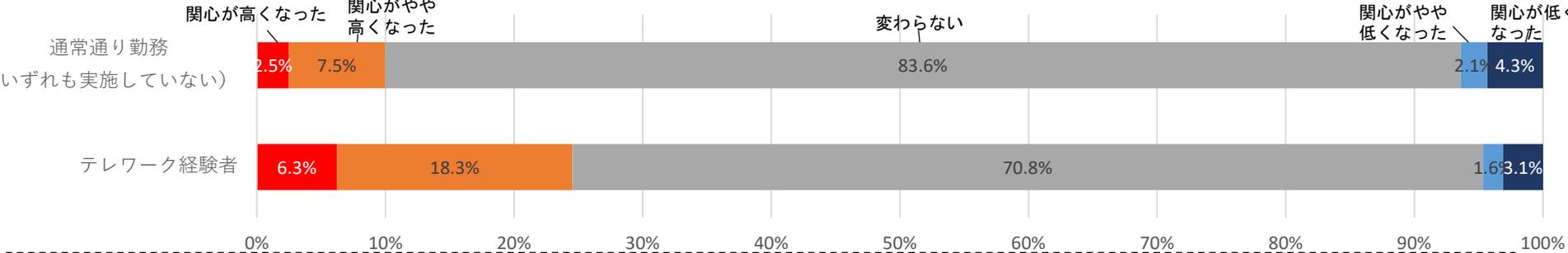
2. (就業者) テレワーク経験者の意識変化

○テレワーク経験者は、WLB、地方移住、仕事に関する意識が変化した割合が高い。

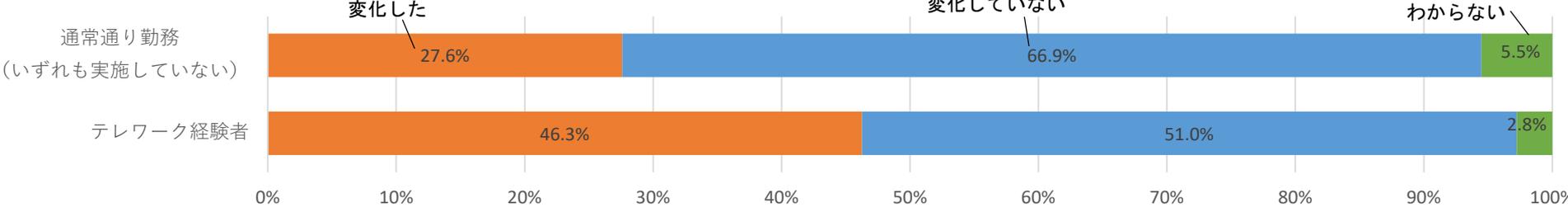
質問 今回の感染症拡大前に比べて、ご自身の「仕事と生活のどちらを重視したいか」という意識に変化はありましたか。



質問 今回の感染症の影響下において、地方移住への関心に変化はありましたか。



質問 今回の感染症拡大前に比べて、職業選択、副業等の希望は変化しましたか。



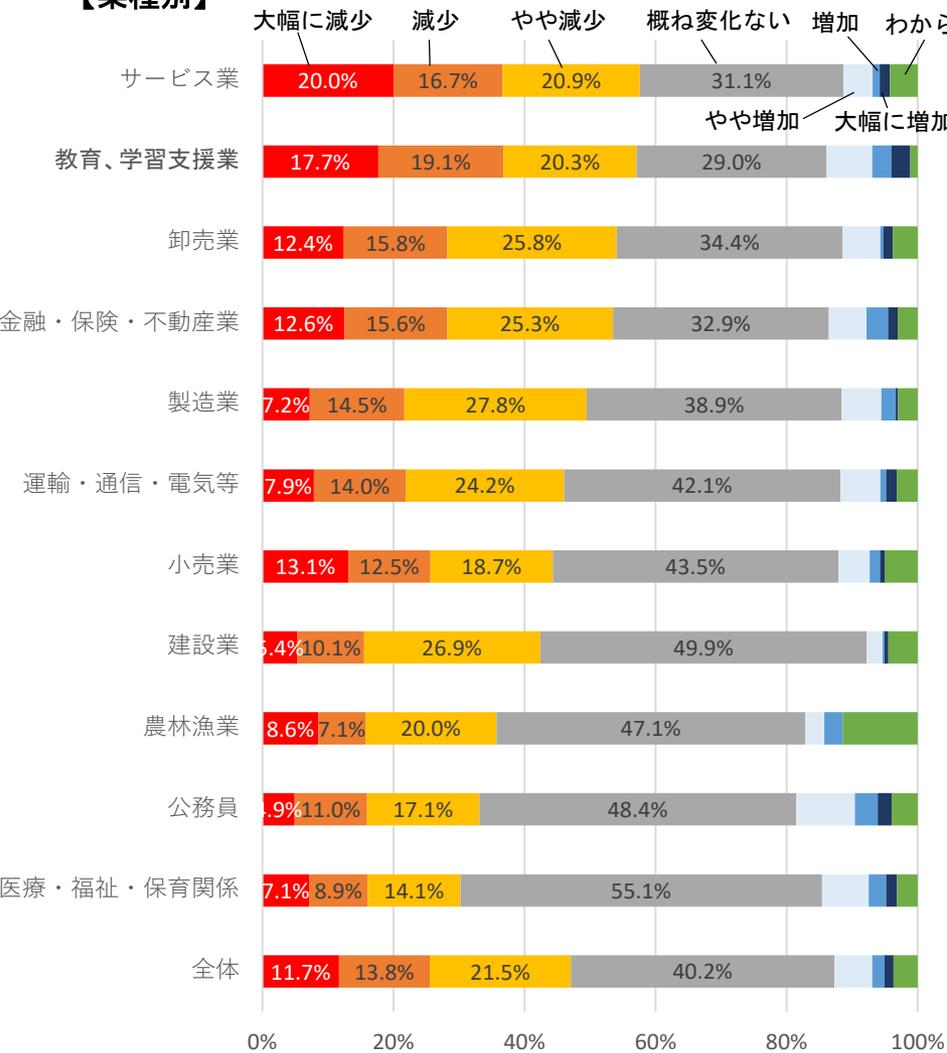
2. (就業者) 労働時間、生産性の変化

○テレワーク等の実施率が高い業種では、労働時間が減少している傾向。労働生産性の改善の効果は限定的である。

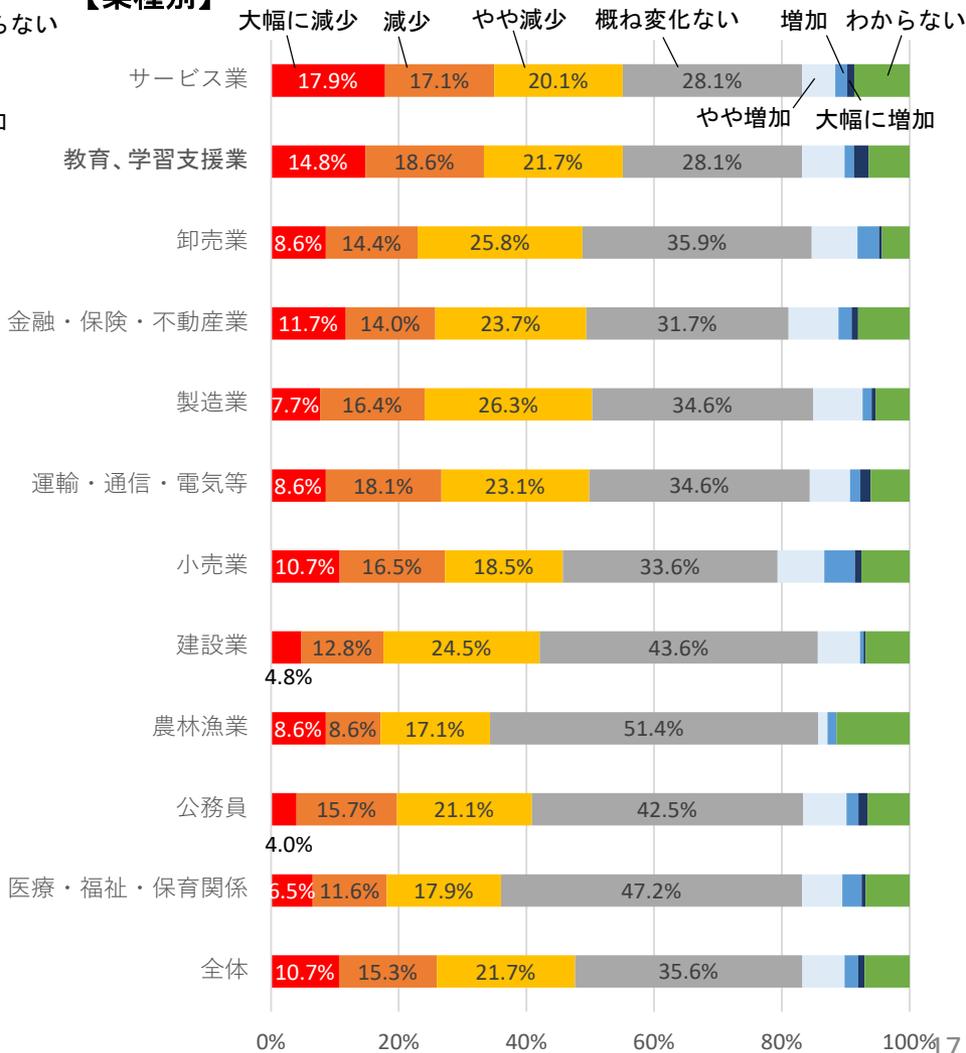
質問 今回の感染症の影響下において、労働時間はどのように変化しましたか。

質問 今回の感染症の影響下において、仕事の効率性や生産性はどのように変化したと感じましたか。

【業種別】



【業種別】



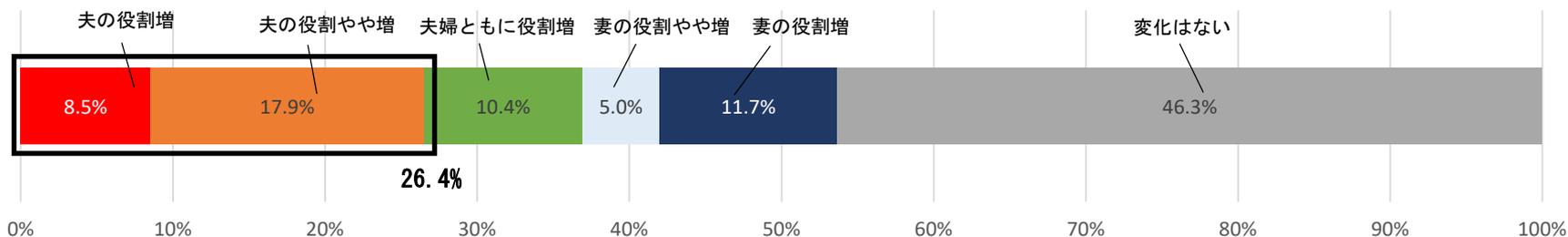
2. (子育て) 家事・育児の役割分担

○テレワークの利用など、夫の働き方が変化した家庭では、家事・育児での夫の役割が増加する傾向。

質問 配偶者（あなたの夫又は妻）の働き方に変化はありましたか。該当するもの全てに回答して下さい。

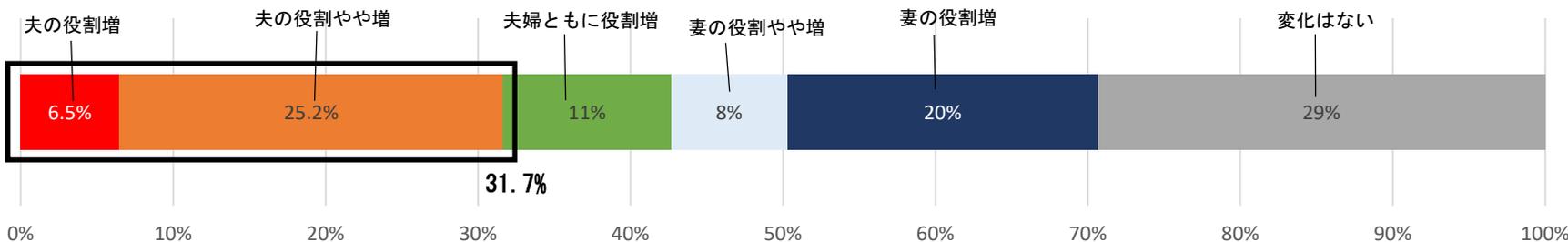
回答者割合	テレワークの利用・ 利用増加	労働時間の柔軟化 (時差出勤、フレック クスタイム等)	労働時間の減少	労働時間の増加	その他の変化	変化は無い
全体	18.7%	10.0%	25.0%	3.5%	1.2%	51.9%

質問 今回の感染症の影響下において、家事・育児に関する夫婦間の役割分担に変化がありましたか。



【夫の働き方に变化ありと答えた女性（妻）の回答のみを集計】夫婦間の家事・育児の役割分担の変化

【夫の働き方の変化】



2. (子育て) 夫婦の家事・育児の役割分担と満足度

○家事・育児において、妻ではなく夫の役割が増加した家庭では、女性(妻)も男性(夫)も生活満足度の低下幅が小さい傾向。

女性

男性

【夫婦の家事・育児の役割分担】

0.0 1.0 2.0 3.0 4.0 5.0 6.0 7.0

0.0 1.0 2.0 3.0 4.0 5.0 6.0 7.0

5.4 ← 6.4

5.0 ← 5.5

夫の役割が増加

1.0

夫の役割が増加

0.6

5.1 ← 6.7

5.1 ← 6.0

夫の役割がやや増加

1.6

夫の役割がやや増加

0.9

4.4 ← 6.3

4.6 ← 5.6

夫・妻ともに役割が増加

1.9

夫・妻ともに役割が増加

1.1

4.3 ← 6.1

4.4 ← 5.5

妻の役割がやや増加

1.8

妻の役割がやや増加

1.1

4.0 ← 6.1

4.3 ← 5.7

妻の役割が増加

2.0

妻の役割が増加

1.4

4.6 ← 6.3

4.6 ← 6.0

変化は無い

1.6

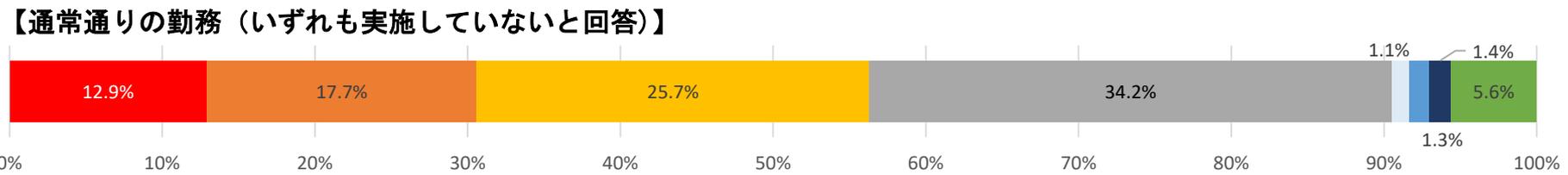
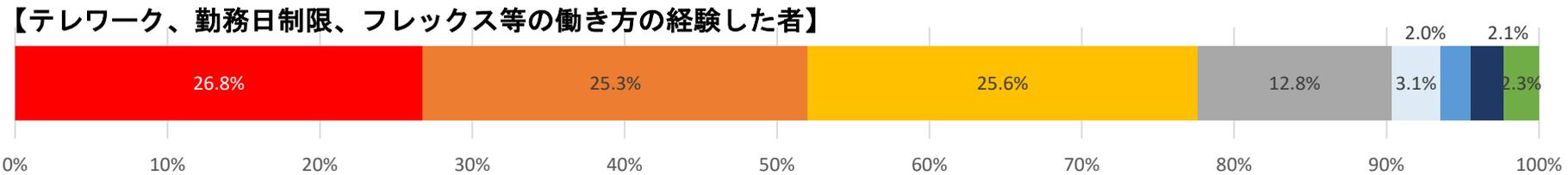
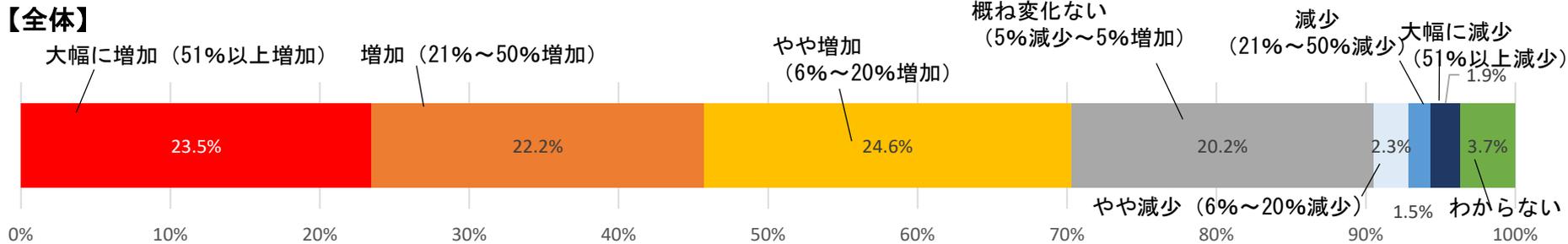
変化は無い

1.3

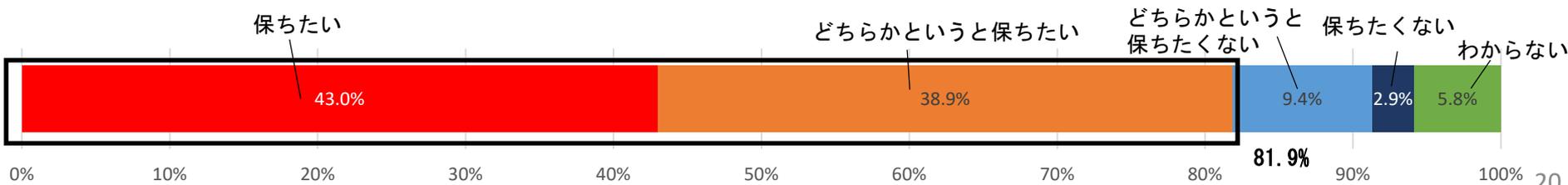
2. (子育て)家族と過ごす時間と経験した働き方

○家族と過ごす時間は増加傾向。テレワーク等の経験者はその割合が高い。

質問 今回の感染症の影響下において、家族と過ごす時間はどのように変化しましたか。



質問 現在の家族と過ごす時間を今後も保ちたいと思いますか
(感染症影響下での家族と過ごす時間が増加したという回答者に質問)

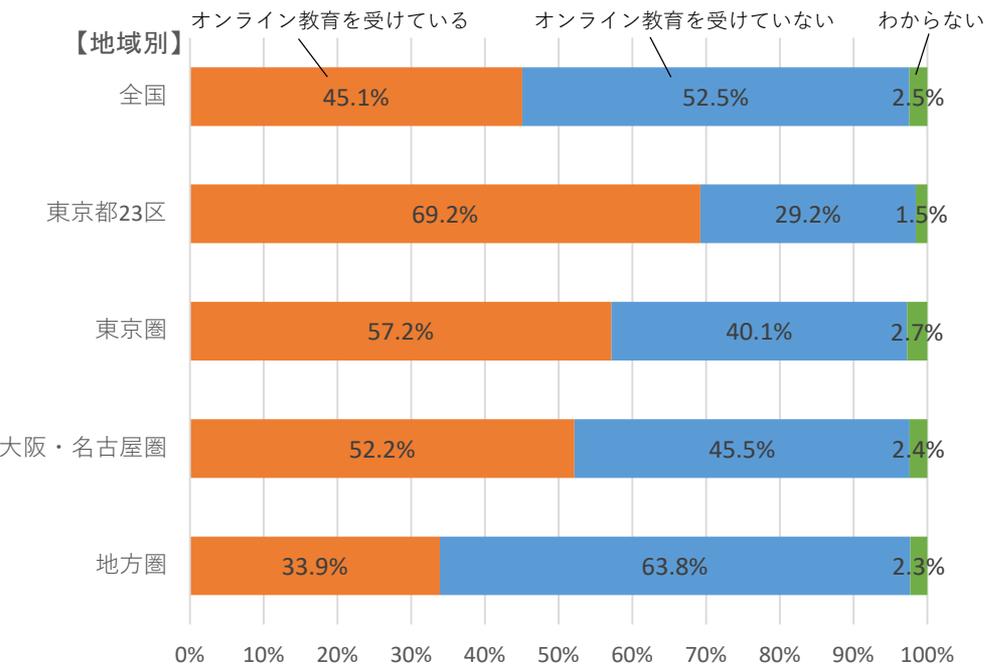


2. (子育て) 子どものオンライン教育

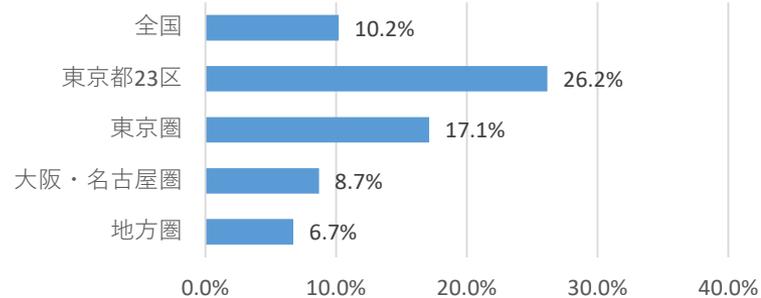
○小学生・中学生のオンライン教育の受講率は、地域別で大きく異なる。

質問 あなたの子供のうち、小学生以上で一番年齢の低い子供について回答して下さい。
 今回の感染症の影響下において、あなたの子供が経験した教育を全て回答してください。

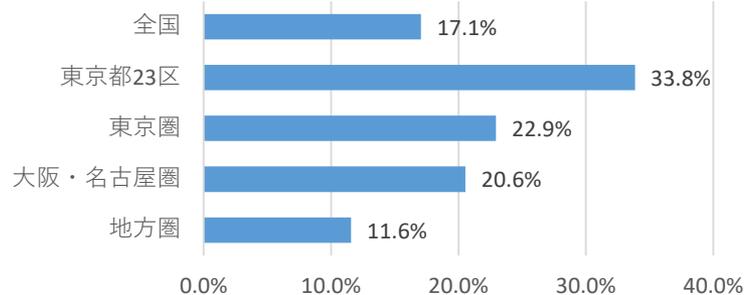
オンライン教育を受けている割合



学校の先生からオンライン授業を受けている割合



学校以外の塾や習い事でオンライン授業を受けている割合

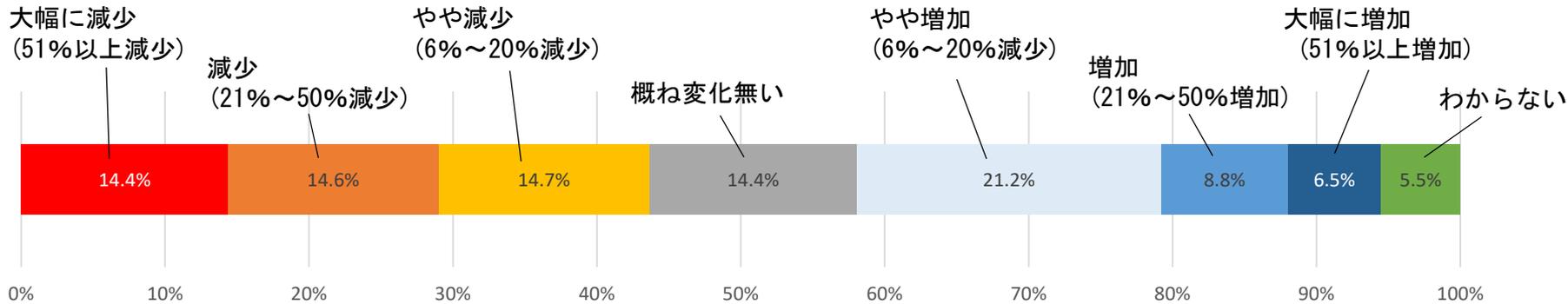


①学校の先生からオンライン授業を受けている	②学校の先生からオンライン上の学習指導(メール等)を受けている	③学校から家庭用のオンライン教材の提供を受けている	④学校以外の塾や習い事でオンライン授業を受けている	⑤学校以外の塾や習い事でオンライン上の学習指導(メール等)を受けている	⑥学校以外の塾や習い事でオンライン教材の提供を受けている	⑦その他のオンライン教育を受けている	⑧オンライン教育を受けていない	⑨わからない
10.2%	11.1%	15.2%	17.1%	6.4%	9.9%	5.4%	52.5%	2.5%

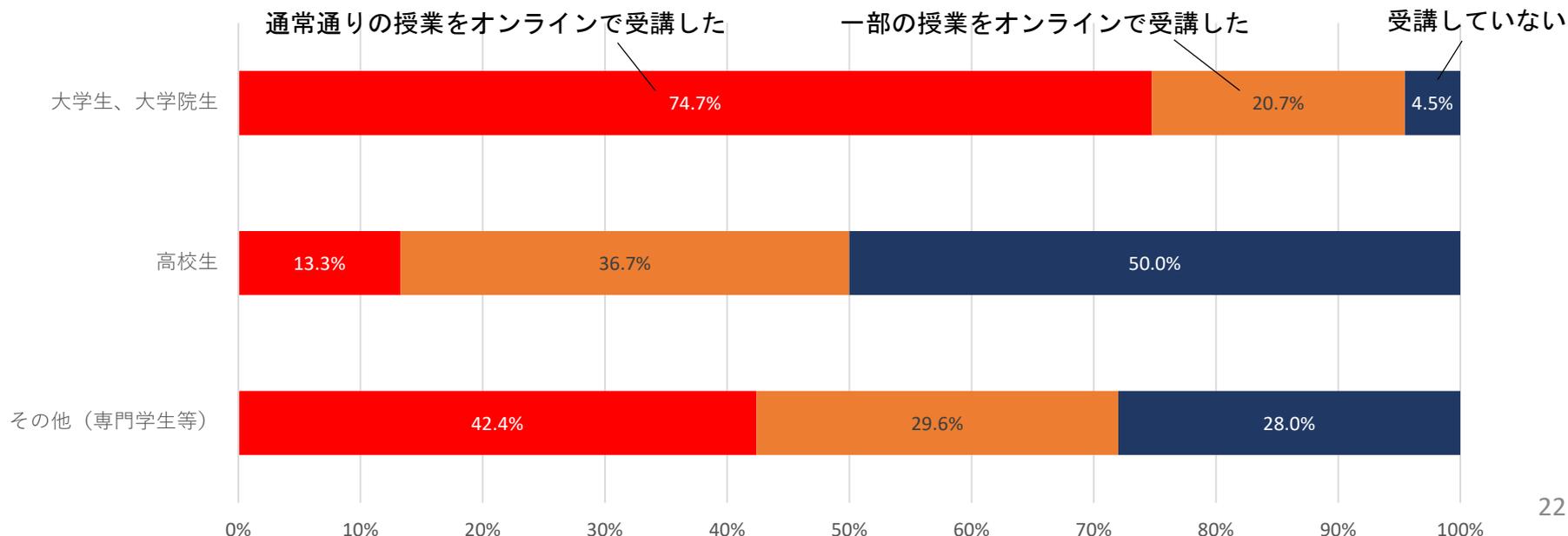
2. (学生)学習時間、オンライン授業

○学生の学習時間の増減は二極化。オンライン受講率は大学と高校で大きく異なる。

質問 今回の感染症拡大前に比べて、学習時間(自習、授業、研究等の合計時間)はどのように変化しましたか。



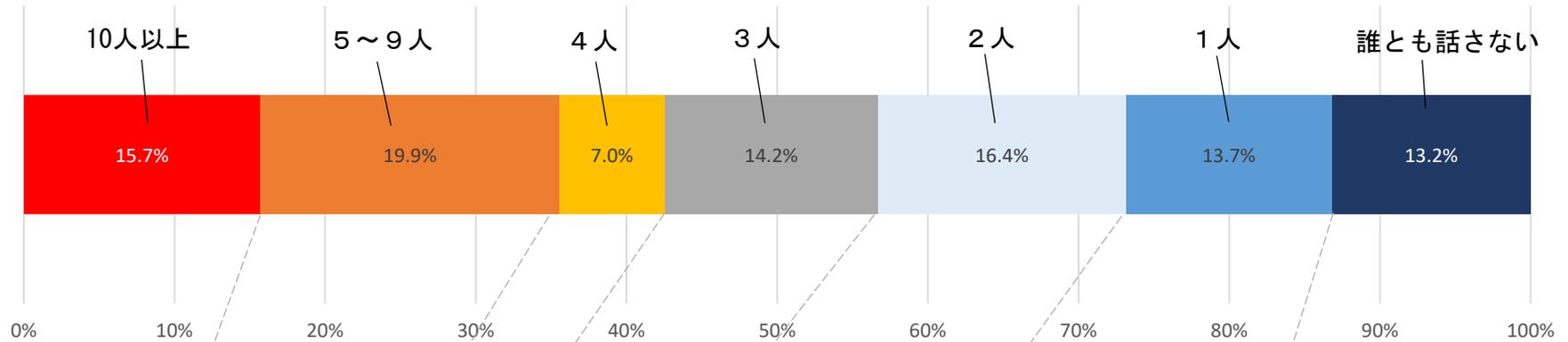
質問 通学している学校で、オンライン授業を受講しましたか。



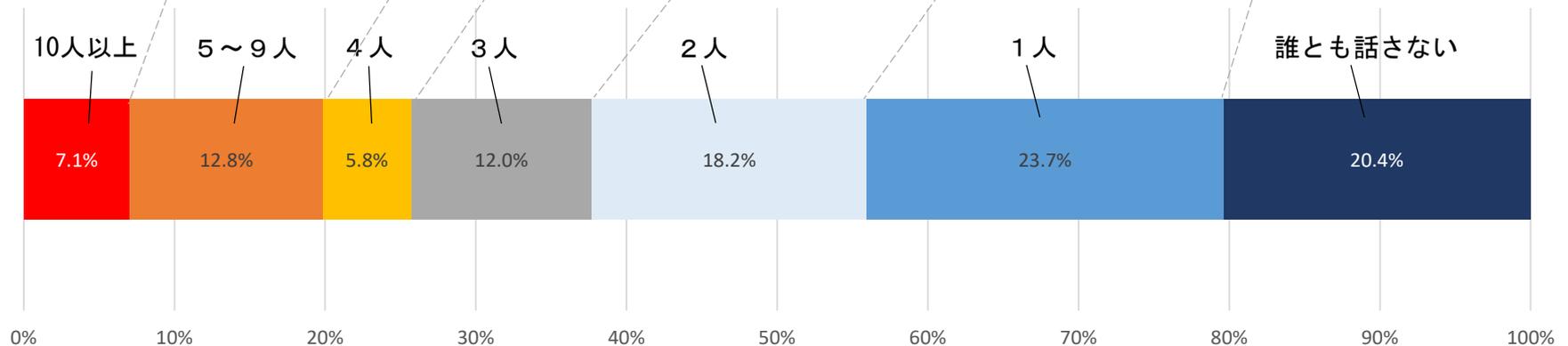
2. (シニア)人との交流

○シニアの、人との交流の機会が減少している。

質問 今回の新型コロナウイルス感染症拡大以前は、平均して1日の間に、同居する人以外に何人と話していましたか（対面、電話、ビデオ通話等を含む）。



質問 今回の感染症の影響下において、平均して1日の間に、同居する人以外に何人と話していますか（対面、電話、ビデオ通話等を含む）。

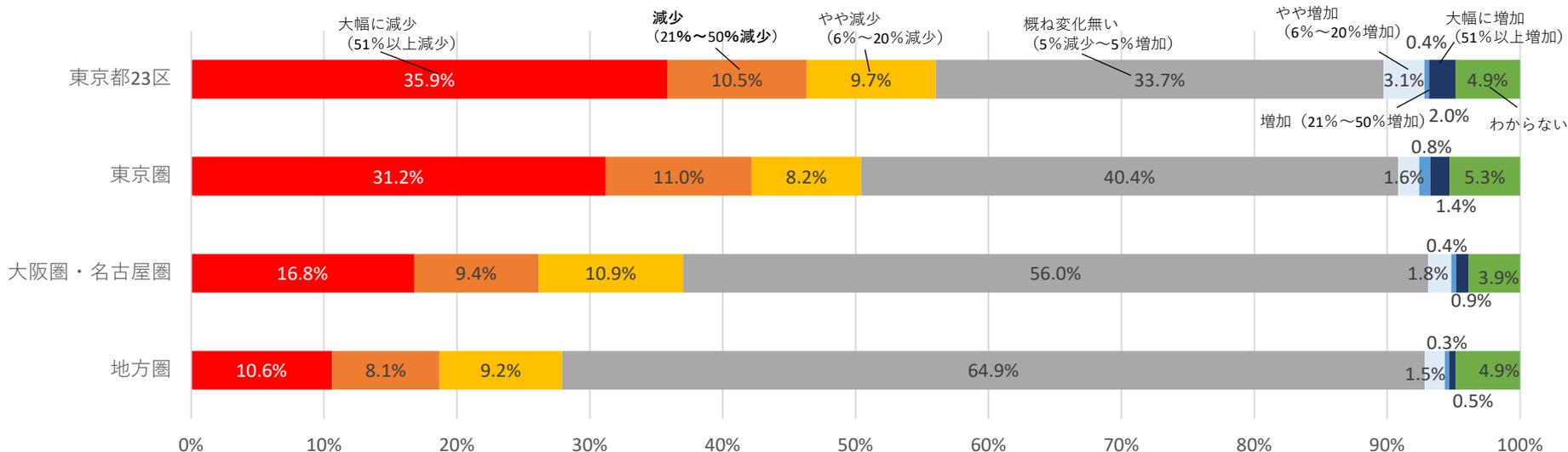


3. 将来の生活意識・行動の変化

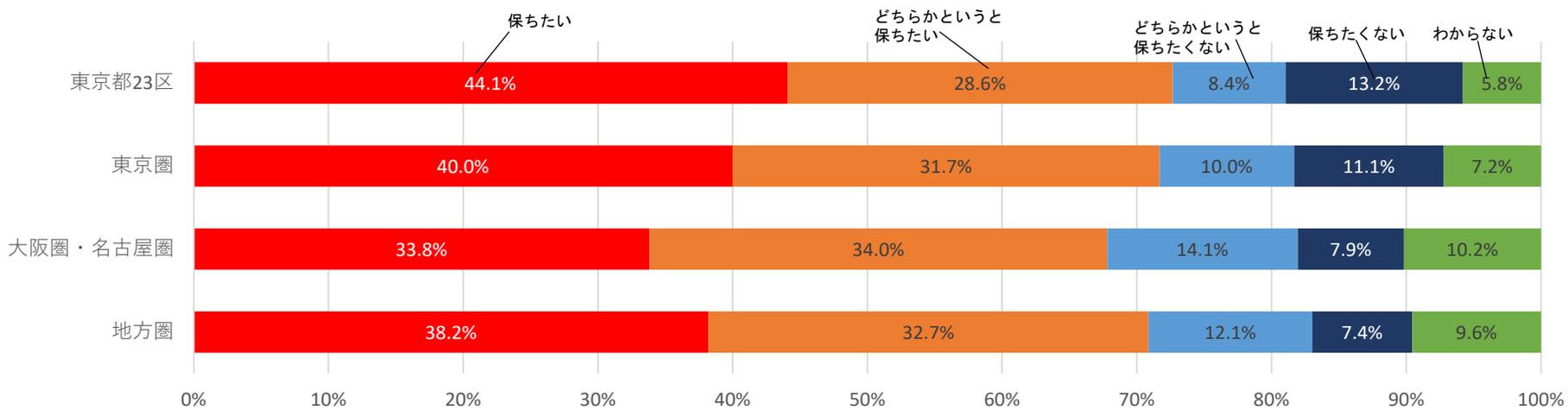
3. (就業者) 通勤時間の変化、継続

○テレワーク実施率の高い、東京圏に居住している人の通勤時間が特に減少しており、今後も減少した通勤時間を保ちたい、との回答が約7割。

質問 今回の感染症の影響下において、1週間の中で通勤にかかる時間はどのように変化しましたか。



質問 現在の通勤時間を今後も保ちたいと思いますか。(通勤時間が減少したという回答者に質問)

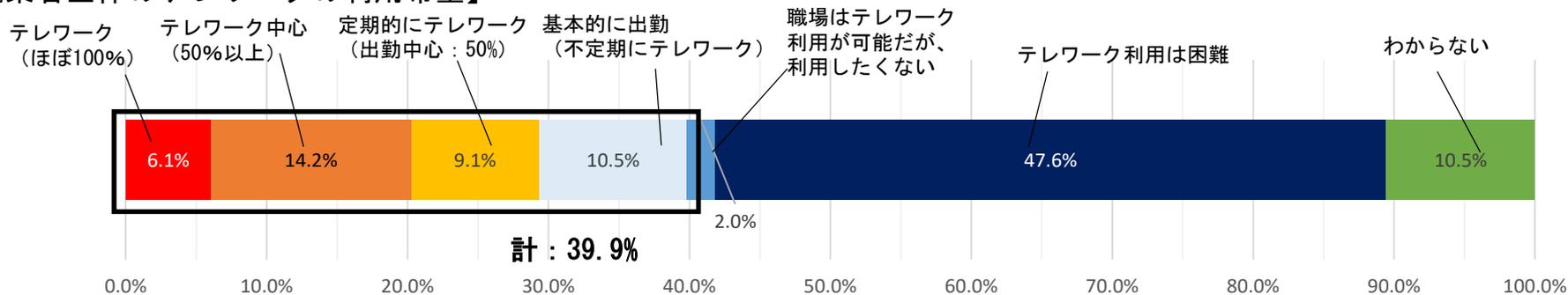


3. (就業者) テレワークの利用希望

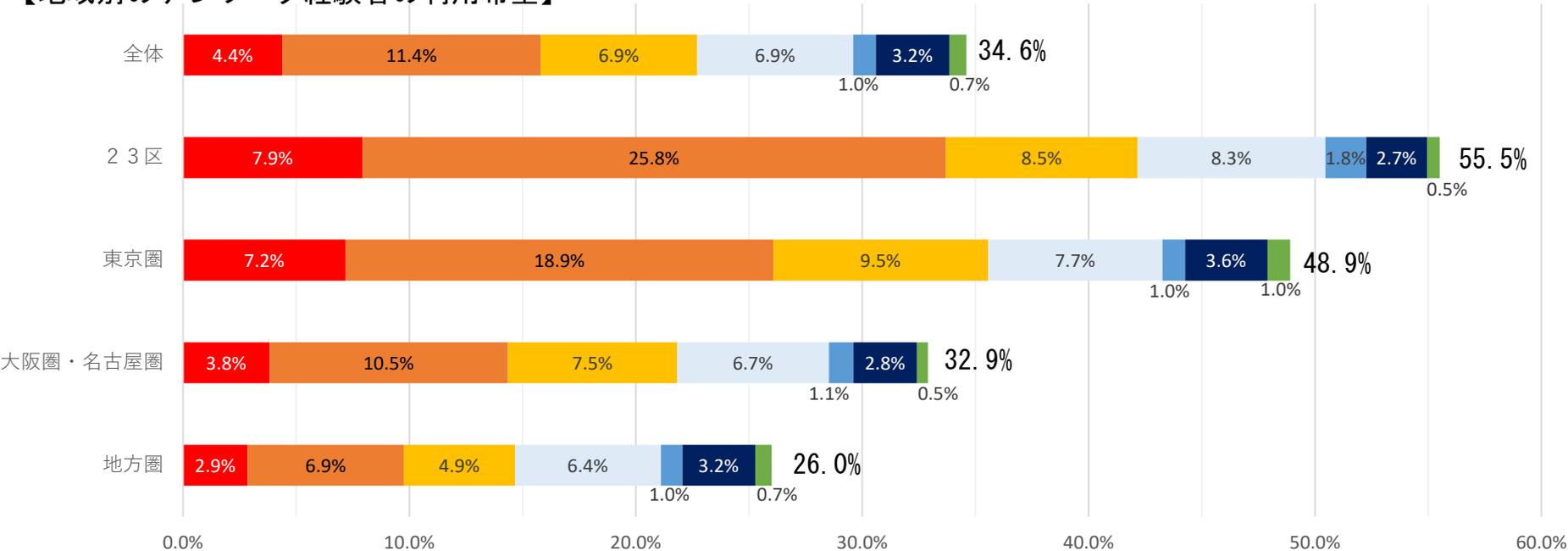
○テレワーク実施率の高い東京圏に居住している人は、今後はテレワークを中心として利用したい、との回答が多い。

質問 今後、どの程度の頻度でテレワークを利用してみたいですか。

【就業者全体のテレワークの利用希望】

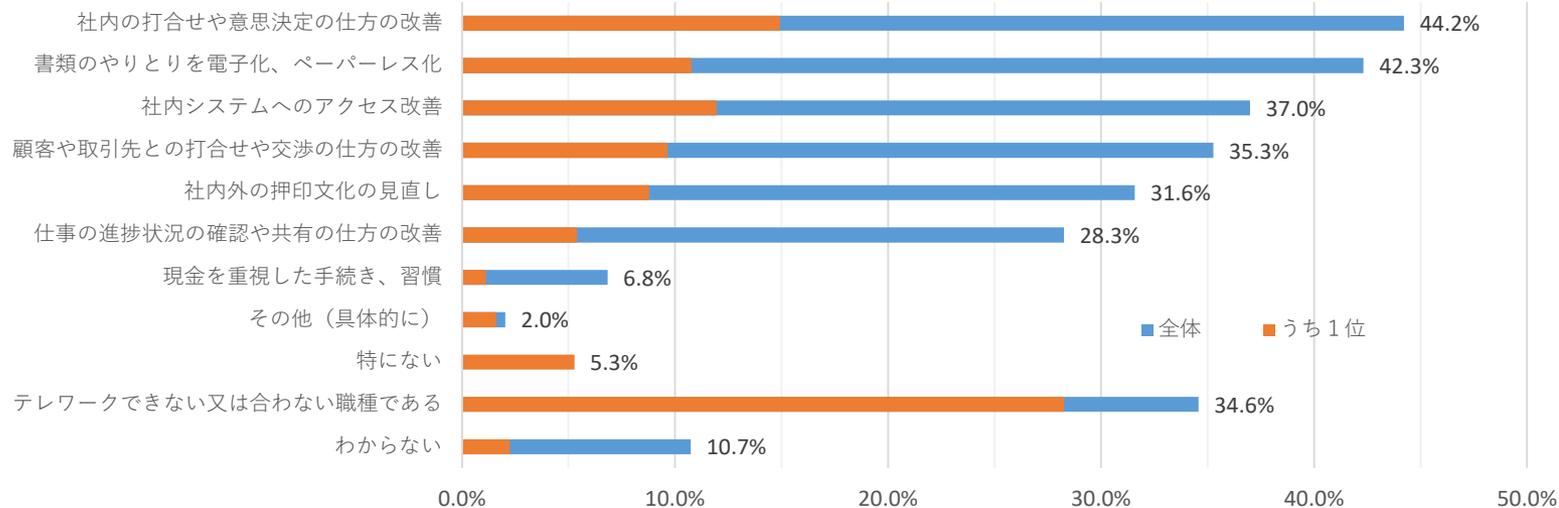


【地域別のテレワーク経験者の利用希望】

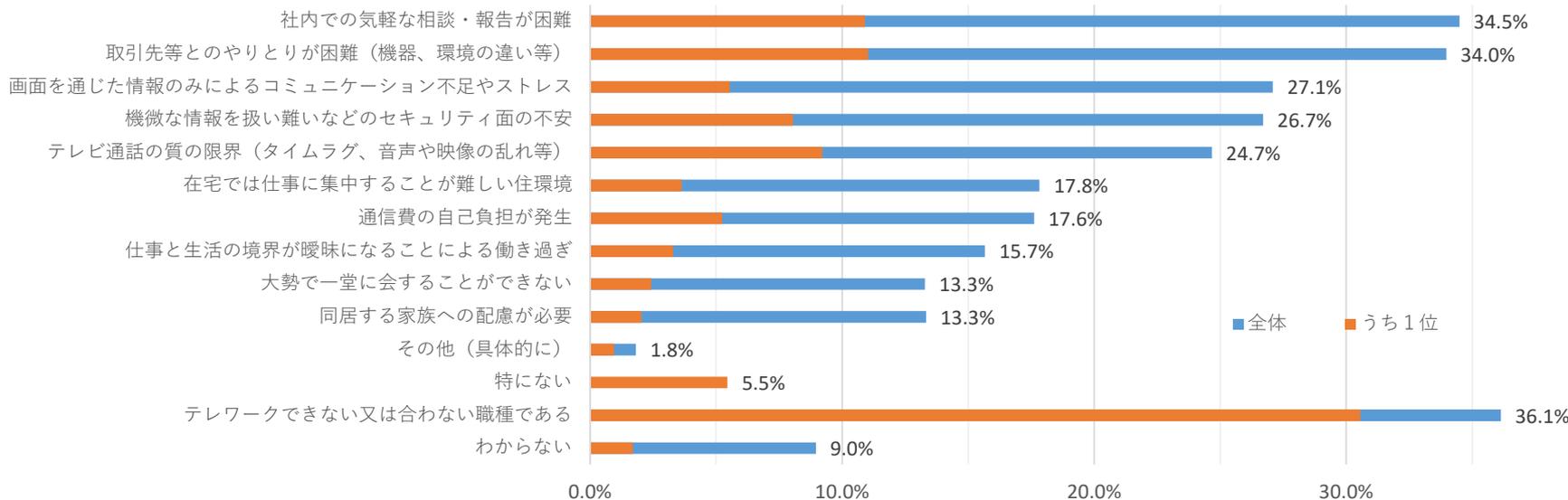


3. (テレワーク実施者) テレワーク利用に必要な課題、不便な点

質問 今後、あなたの職場において、テレワークの利用拡大が進むために必要と思うものに関し、重要なものから順に回答してください。(最大3つ)

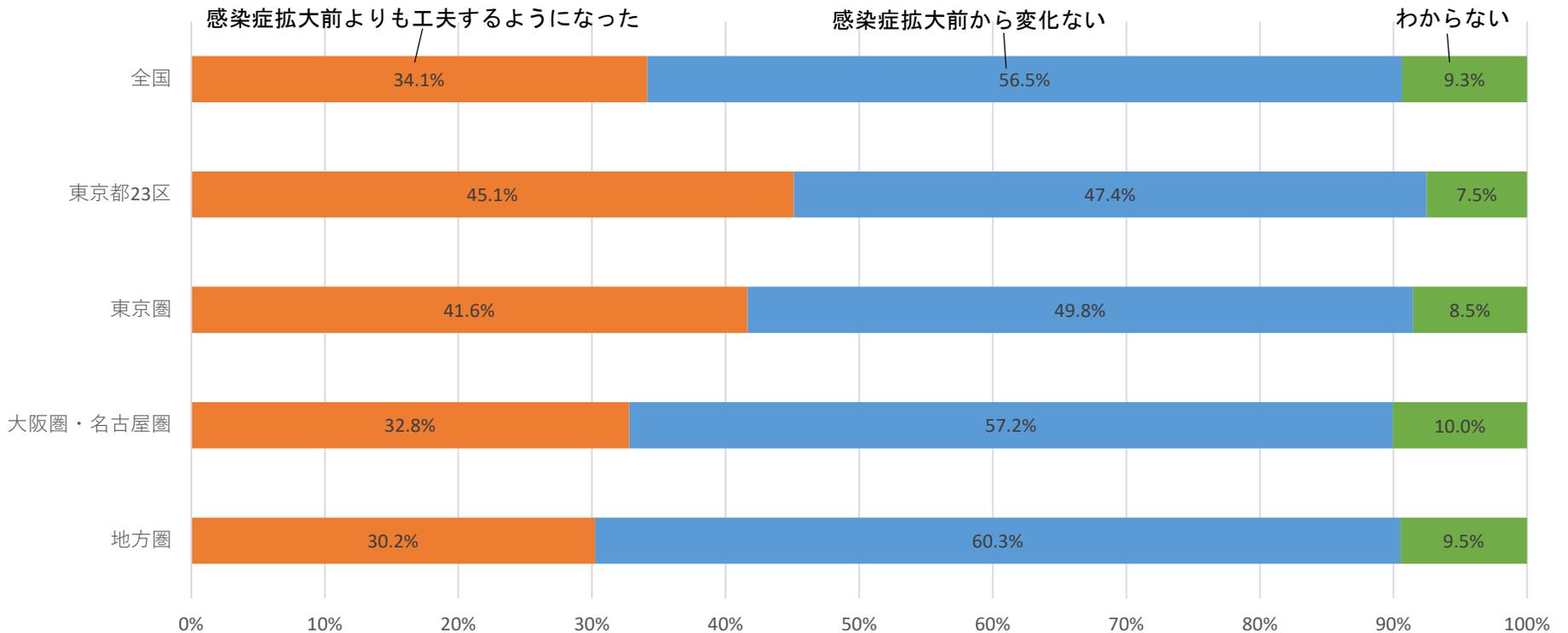


質問 あなたの職場において、テレワークで不便な点と考えられるものに関し、重要なものから順に回答してください。(最大3つ)

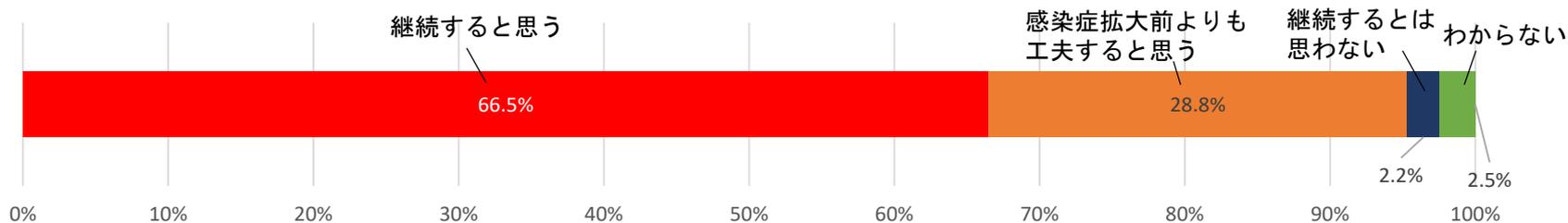


3. (子育て) 家事・育児の役割分担の工夫

質問 家事・育児について、夫婦間の役割分担のやり方を工夫するようになりましたか。
(例えば、固定的な役割分担の柔軟化、夫婦間のより丁寧な相談等)

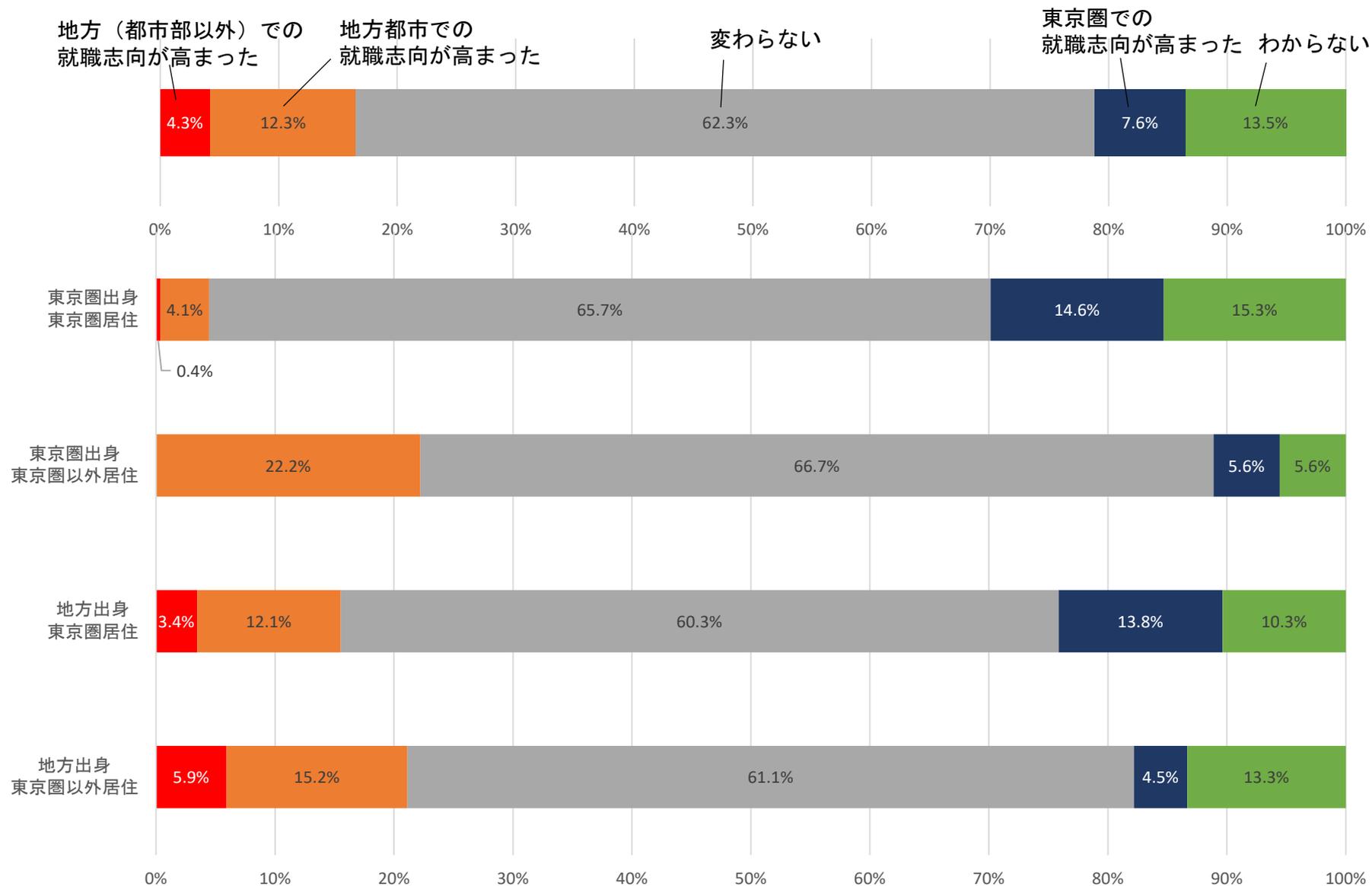


質問 その工夫は、今後も継続すると思いますか。
(感染症拡大前よりも工夫するようになったという回答者に質問)



3. (学生) 将来の進路

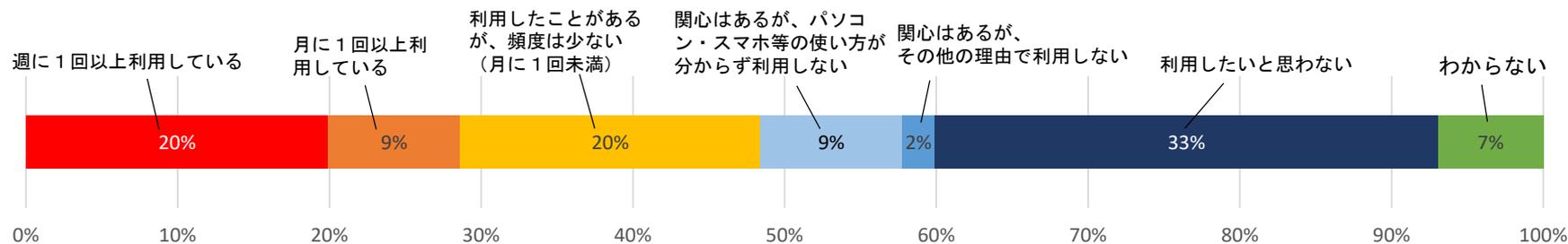
質問 今回の感染症拡大前に比べて、東京圏（東京、神奈川、千葉、埼玉）で就職するか、それ以外で就職するかの選択・希望に変化はありましたか。



3. (シニア) ビデオ通話の利用

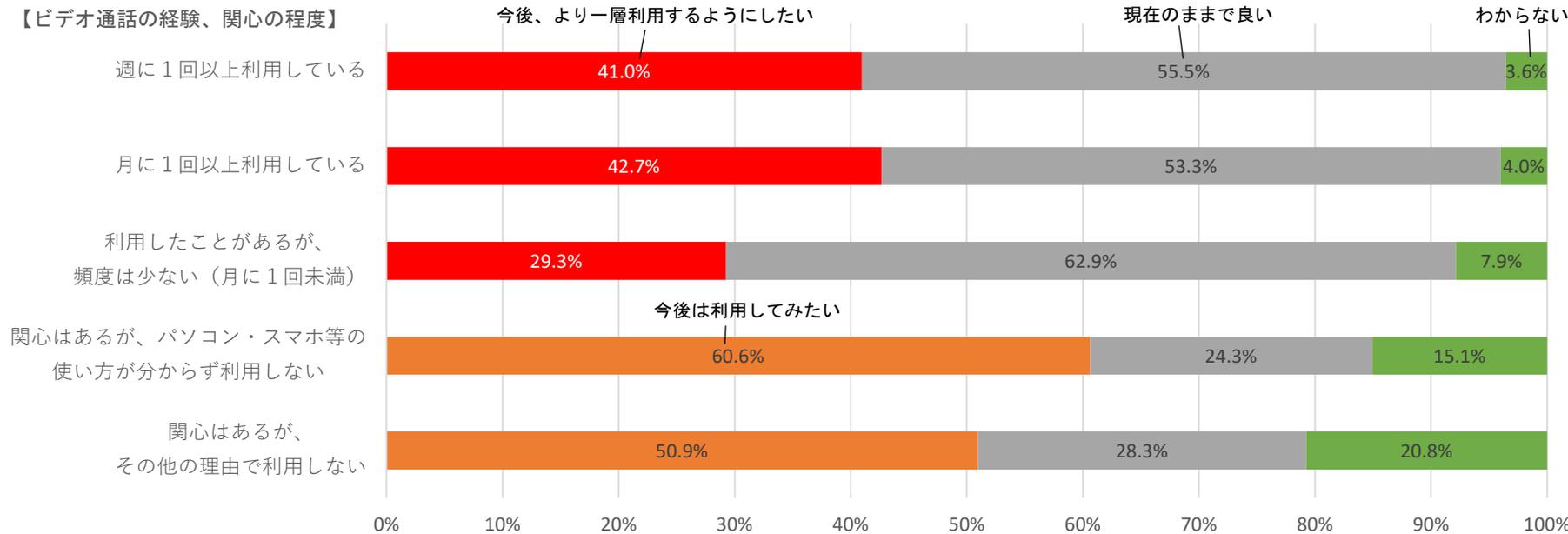
○シニアの約5割がビデオ通話を利用したことがある
 ○使い方が分からず、ビデオ通話を利用したことの無い人の6割以上が今後は利用したい、との回答

質問 ビデオ通話 (zoom、skype、Line等) の経験、関心の程度について、最もあてはまるものを回答してください。



質問 今後、ビデオ通話 (zoom、skype、Line等) を利用してみたいと思いますか。

【ビデオ通話の経験、関心の程度】

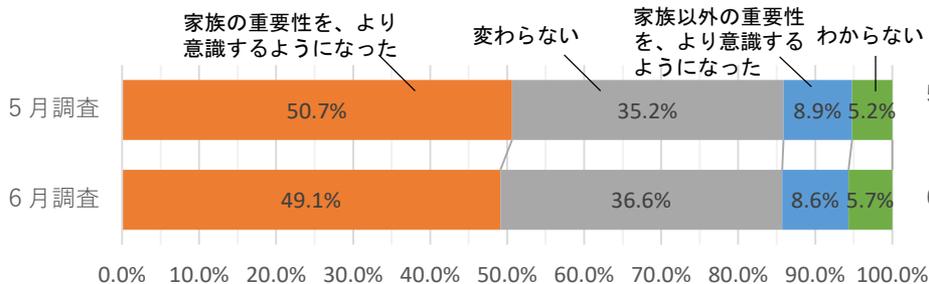


4. 時点比較/パネルデータ

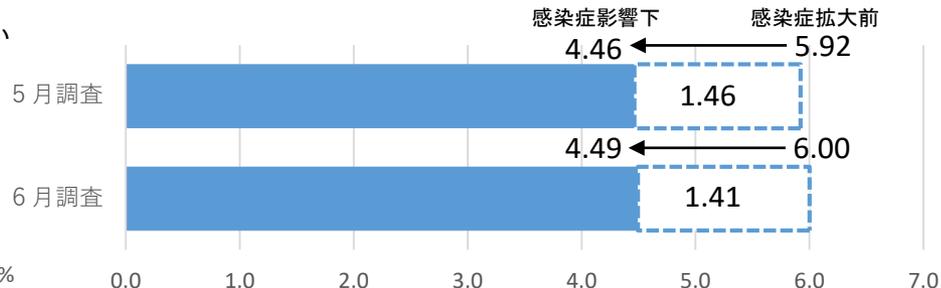
4. 5月調査と6月調査の比較（意識の変化）

○ 5月調査と6月調査の傾向は概ね同じだが、6月調査では「（仕事や家庭等の）意識が変わらない」と回答した人の割合が微増。

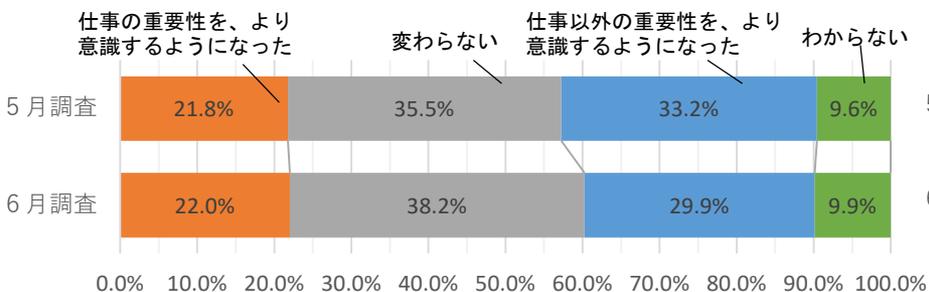
家族の重要性に関する意識の変化（共通）



生活全体の満足度(全体)

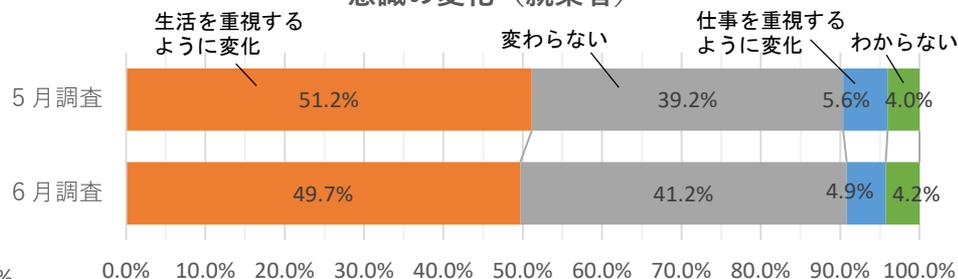


仕事の重要性に関する意識の変化（共通）

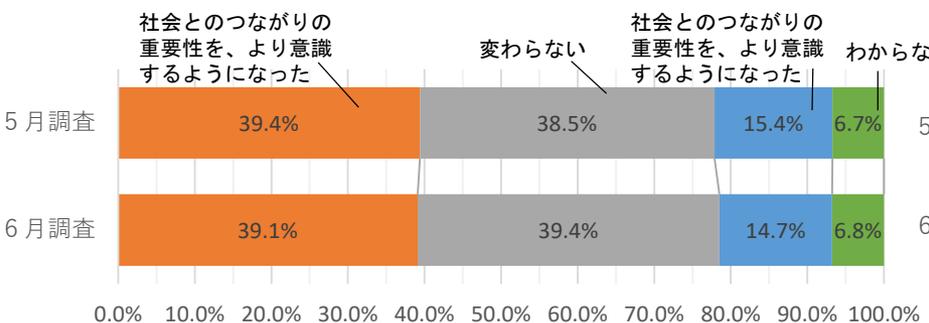


「仕事と生活のどちらを重視したいか」という

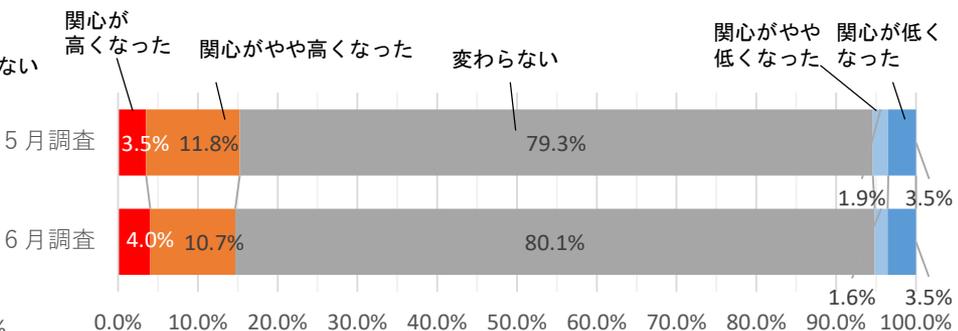
意識の変化（就業者）



社会のつながりの重要性に関する意識の変化（共通）



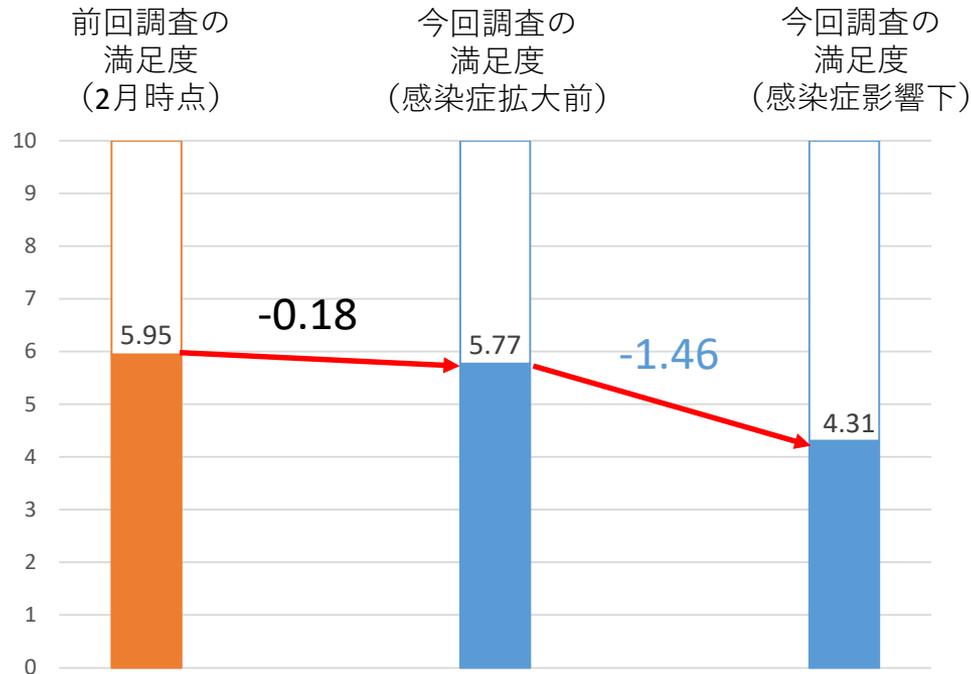
地方移住への関心の変化（三大都市圏）



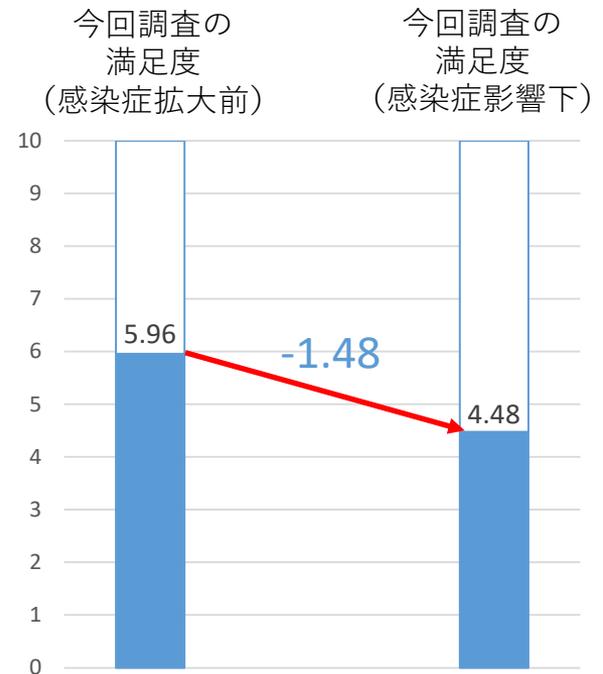
4. パネルデータの満足度

○ パネルデータと今回調査時の回答者全体の生活の満足度の傾向は概ね同じ。

パネルデータ（サンプル数398）



回答者全体（サンプル数10,128）



調査方法・調査対象等

- 調査方法：インターネット調査（国内居住のインターネットパネル登録モニター）
- 回収数：10,128
- 調査期間：5月25日～6月5日（5月25日～29日に半数を回収し、6月1日～5日に残りの半数を回収）
 3月14日：改正新型インフルエンザ等対策特別措置法施行、4月7日：緊急事態宣言発令、
 5月14日：39県で緊急事態宣言を解除、5月25日：全ての都道府県で緊急事態宣言を解除

- 回収数の割当（サンプル数の設計）
 - ・性別・年齢階級別（5歳毎）で同数を均等に割当（24区分×422人＝10128）
 ※年齢は「15～19歳」から「70歳以上」までの12区分×性別2区分＝24区分
 - ・地域別7区分で人口比例で割当

- 回収数の内訳（主な属性別）
 - 【就業者】6,685人 【子育て世帯】2,168人 ※子供が18歳未満
 - 【学 生】1,035人 【シニア※60歳以上】2,532人

○回収数の内訳（地域別）

北海道・東北	東京	首都圏 (東京以外)	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄	合計
1,152	1,104	2,400	1,776	1,632	912	1,152	10,128

○就業者・子育て世帯・学生の内訳

正規雇用	3940
非正規雇用	1805
会社などの役員	222
自営業（手伝いを含む）	586
内職・在宅ワーク	132
合計	6685

10～20歳代	263
30歳代	835
40歳代	786
50歳代	249
60歳代以上	35
合計	2168

高校生	316
大学生、大学院生	594
その他（専門学生等）	125
合計	1035